

宮崎大学医学部整形外科

同門会誌

第 24 号
平成 25年 6月

宮崎大学医学部整形外科学教室同門会



平成24年度 宮崎大学医学部 整形外科学教室 新入教室員歓迎会 平成24年4月14日 於 宮崎観光ホテル



平成25年度 宮崎大学医学部整形外科同門会 平成24年12月8日 於 宮崎観光ホテル



ご挨拶

会長 河野雅行

昨年は我々の先輩であられた小牧一麿先生・百瀬寿之先生が逝去されました。ご冥福をお祈りいたします。

少し遅れましたが、昨年7月開催の全国有床診療所宮崎大会並びに11月開催の九州医師会総会・医学会の際には皆様方からのご支援をいただきまして有難うございました。お陰様で全国有床診は400名超、九州医師会は延1900名の参加が有り盛会の内に施行されました。

社会情勢を眺めますと、去る12月に衆議院選挙が行われ、自民党が大勝しました。経済、国内、外交問題に至るまで難問が山積しているこの鬱屈した状況を一日も早く打開して、特に医療・福祉関係には重点的に取り組んでもらいたいものです。そんな中、山中教授のノーベル賞受賞は我が国医学会に於いても久し振りの朗報でした。聞くところに拠りますと、彼も元・整形外科医であったそうです。暗いニュースの多い中で久々に日本人としての自信を取り戻した様な明るい話題でした。

中央、県医情勢につきましては、今年4月には日医会長選挙があり、我々の推薦した元・福岡県医師会長の横倉先生が第19代会長に就任しました。1950年の谷口会長以来、久しぶりの九州出身会長です。横倉執行部の諸問

題への取り組みにより、将来の医療・福祉には少しばかり希望が見えた気がします。しかしながら医療界に限定してもTPP加入による混合診療解禁・株式会社の医療参入による医療の営利化から皆保険制度の崩壊、特定看護師設定による医師裁量権の縮小、更には国の専門医・総合医認定による医師の統制、薬局によるゲートキーパー化、PT等の開業問題、放射線技師による診断化、医師法21条解釈による医師提訴(診療に関連した予期しない死亡が年間数万例有ると言われておりますが、その内から現在年間約150名の医師が送検されています)等々問題は山積しております。

整形外科に関しましても多々ありますが、田島名誉教授にも御苦労いただきましたあんま・針・灸、柔整師に於ける”療養費”の問題があります。此の問題は随分前から、様々な機会を捉えて提言していました。最近の急激な医療費高騰状況を観て、行政もようやく問題視し始めた様です。厚労省の中に検討委員会を立ち上げ見直しを謀る事になり、その結果、少しは改善される事を期待したいものですが、政治家まで巻き込んでようやく手に入れた既得権益の縮小を、易々と受け入れるとは考え難い状況です。

昨年は診療報酬と介護報酬の改定がなさ

れました。厳しい財政状況とは言え、国民の安全・安心を守る医療には、もう少し予算を廻すべきでした。現在、既に26年改訂への準備が始まっており、我々も地域医療最前線からの視点で注意深く見守る必要があります。整形外科関連では前回の改定から、急性期以外のリハビリが次第に介護保険や医療類似行為へとシフトして行く傾向に拍車が掛かっております。次回改訂につき、先生方から御要望があれば整形外科医会や地域医師会を通じて県医師会に申し出てください。

厳しい財政状況とその診療報酬の配分が問題になるにつれて、厚生局の指導も少し様変わりして来ました。医療費削減、国・官による医療統制等、様々な思惑が有ると思いますが、最近は年間の指導件数に数値目標を設定する等、明確な意思を持って指導・監査が行われ、全国均一化の名の元に年々厳しくなつて来ております。指導には集団指導と個別指導が有り、特に個別指導の有り方について、医療機関選定基準の公表や通達時期等が毎回問題になります。県医師会・日本医師会では重要事項として何回も申し入れをしましたが、国の定めた指導大綱を盾に、なかなか改善されません。毎年、県内で60以上の医療機関に個別指導が行われ、毎回、県医師会から立ち会い助言をしております。その際に気が付きました注意すべき点を挙げてみますと、

- ・院長が欠席したり、無断でキャンセルしたり、持参する書類が不備な場合には再指導の対象になります。再指導が重なると監査に繋がる可能性があります。
- ・カルテを主とする指定された書類は正確に記載する事が肝要です。特に指導料、管理料を算定する際には要注意です。

- ・今回、外来リハビリは項目が設けられましたが、これもカンファレンス開催や届け出、記載が必要ですし、今でも処置のみを含む無診察診療は法律違反となります。
- ・冷暖房費、X-Pコピー、三角筋、ガーゼ等、患者から徴収出来ない費用があります。
- ・みだりに施術業者の施術を受けさせる事に同意を与えてはいけません。
- ・特定の薬局への指示・誘導は禁止されています。
- ・左右、部位が異なる例、カルテ病名と投薬や検査の為のレセプト病名の一致しないもの。等々その他細かい指摘事項まで含めると無数に挙がります。若し、何か問題があれば、最大5年間遡って返還命令が来ます(これは大変手間取り、返還金額も不可能な程に莫大となり、最悪の場合倒産の危険あり)。更に、療養担当規則から外れますと違反行為として最大5年間の保険医停止となります。現在の保険医療制度下では5年間の停止は廃業と同じ事です。青本・療養担当規則に充分お目通しをしていただき、御注意をお願いいたします。

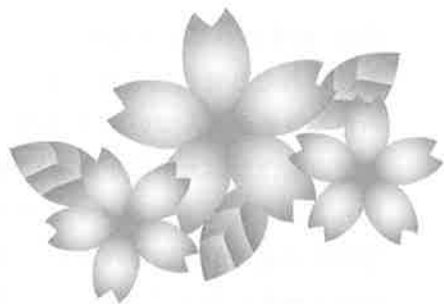
教室に於かれましては、先生方は充分御存知の様に帖佐教授を中心に、様々な活動を積極的に推進されております。本年も幾つかの学会・研究会を主催されるようです。帖佐教授は今や整形外科若手教授の中で全国的にも抜群の知名度で、マスコミ等でも御活躍中です。大変お忙しい様ですので体調に注意をされます様お願いいたします。

同門会活動は役員の先生方、会員先生方の御協力で順調に推移しております。本年度の同門会奨励賞は慎重な審査の結果、大倉俊之先生と小牧巨先生に決まりました。近日中に御講演をお願いいたしますと共に、更なる精

進を期待いたします。本年度は本日までに本部浩一先生、河野立先生、松元征徳先生、村田潔先生、福元洋一先生、方が開業されました。皆様、御盛業中と伺っております。近日中に開業予定の先生方も数名いらっしゃいます。医療・特に開業医には厳しい逆風の環境ですが、御自信の健康に留意されて地域医療への御貢献を期待いたします。今期の新入会は威

美玲先生、大塚記史先生、森田雄大先生、谷村俊次先生の4名の先生方です。次期も数名の御入会が予定されています。今後は、教室活動並びに同門会活動に積極的に参加していただきますようお願いいたします。

皆様方のますますの御健勝を祈念いたします。





新入教室員歓迎

帖 佐 悦 男

昨年は、宮崎県にとりましても日本にとりましても未曾有の災害からの復興への年であったと思います。明るい話題のない年が続きましたが、整形外科医の山中伸弥先生が、iPS細胞の研究でノーベル医学生理学賞を受賞されました。日本にとっても私たち整形外科医にとっても大きな喜びとなりました。山中先生の業績を基に、ますます日本でのiPS細胞研究が進歩することを祈念致します。

教室にとりましては、寂しいお知らせをせざるをえません。同門会員の小牧一磨先生と百瀬寿之先生がご逝去されました。あらためましてこれまでの教室に対しますご厚情に深く感謝するとともに、ご功績を偲び謹んで哀悼の意を表します。

さて、今年は春を告げる桜の開花も例年になく早く桜も春の到来を待ち望んでいたようです。私たちも新入教室員を迎えるこの時期は、何度あっても大変嬉しいものです。新年度にあたり巻頭言を述べます。大学では、新たな改革が進んでいます。本邦で初めての医獣医融合型の大学院が開講し、総合特区に指定されました東九州メディカルバレー構想や医工連携が開始されました。整形外科の役割も臨床に加えこれまで以上多くなりますので、ご協力よろしくお願い致します。医学部附属病院では、救命救急センターの開

設、ドクターヘリの運航が開始され多くの多発外傷の患者さんの治療にあたっており、これまで以上に手術件数が増加し約1200件となっています。入院待ちなどでご迷惑をお掛け致しますが、後方支援のみでなく前方支援などの病診連携をより一層進めますので、これまでと同様に患者さんをご紹介下さい。また、病診連携に関しご質問のある先生は地域医療連携センターにご連絡下さい。病院改築に関しては、整形外科病棟やりハビリテーション部の改修がほぼ終了し、患者さんたちにより満足して頂け最新の医療が受けられる環境が整いました。

教室では、3名の新入教室員を迎えることができ活躍して頂けると期待しております。嬉しいしらせです。レジデントの先生には、希望に満ち溢れた新たな出発点となりましたので、夢と目標をもって診療・研究・教育にあたって頂きたいと思っています。臨床に関しては、まず専門医をとり、その後少しずつスペシャリティを考えもちろん研究に専念したい場合、大学院へ進むことも貴重な体験になります。夜間大学院もありますので活用してください。地方の運動器を扱う整形外科医は、自分の専門を二つ以上持つことが大切と考えています。将来の医師過剰時代の到来に備え、より研鑽して頂ければと思っております。

ます。今後も多くの教室員が増えますよう教室員のみならず同門の先生方のご協力もよろしくお願い致します。

新臨床研修制度により、研修医が中央の病院へと集中したため、関連病院への医師の派遣が不可能となり、地方の病院、しいてはその地域の患者さんに不安な思いをさせることになっております。また、開業される先生方もおられ私たち教室員同様に苦境に立たされていますが、幸い教室・同門の先生方のご理解・ご支援によりなんとか乗り切ることができています。より一層のご協力をお願い致します。

本年度は、「スポーツ基本法、スポーツ庁」について述べます。国がオリンピック施策として、東京オリンピックの招致、パラリンピックの啓発などに取り組んでいます。個人的には、これまでのトップアスリート中心のスポーツ行政から健康スポーツから競技スポーツまで幅広く国が国家戦略として推進

することに変化したと考えています。その中には障害者スポーツも中心の一つになっています。宮崎大学で私たちが以前から進めています「スポーツメディカルシステムの構築」が文科省などから高く評価されています。本学のキャッチフレーズでもあります～世界を視野に 地域から始めよう～のもとに、宮崎スポーツメディカルサポートシステムを全県的に確立して医療界や行政をも網羅したスポーツ医科学の啓発・実施を行うことでスポーツランド宮崎・立県の目標をより一層支える所存です。

最後になりましたが、新たに入局していただいた先生方を加え、教室員の和を大切に、質の高い臨床・研究を実施し、学内外連携を推進し開かれた特徴ある臨床外科系講座として貢献したいと思っております。そのためにも、教室・同門の先生方のご指導・ご鞭撻を、これまで以上によりよろしくお願い申し上げます。



同門会には出席を!!

田島直也

今年の宮崎大学医学部整形外科教室同門会は去る12月8日開催された。現在同門会の正会員は159名、賛助会員を加えると200数名の大所帯になった。しかし、出席者は賛助会員を含め60余名であった。この会には、85歳になられる初代木村千仞教授が熊本から毎年参加されている。12月の年末で多忙であることは皆同じである。又、欠席者は常連で毎年何年も欠席している。

正会員の多くは大学卒業後教室に入局し関連病院を含め整形外科臨床の基礎から研究まで同じ"カマのメシ"を食い研修に励んだものである。宮崎で開業されている人は最後の拠り所はやはり教室(大学病院)であり、関連病院も医員派遣等で大学とは密接な関

係にあり、研究臨床面で大学を頂点として成り立っていると思われる。

同門会を退会した人も数人いるが、宮崎大学医学部整形外科出身というレッテルは一生ついてまわるものである。

大学にいたっては、後任教授が他の大学から赴任した時、先代教授中心の非公式の同門・同窓会が作成されているところもあるが、しかし幸い宮崎大学では継続性が保たれている。

教室・入局歓迎会は別として、正式な年1回の同門会総会・懇親会である。もう少し多くの参加者があってもいいのではないか。同門会員の出席についての再考を願う。

目 次

ご 挨拶	河 野 雅 行	
巻 頭 言		
新入教室員歓迎	帖 佐 悦 男	
同門会には出席を!!	田 島 直 也	
雑 感	田 島 直 也	1
メインテーマ ～未来へ～		
・俺たちに明日はある	川 野 啓 一 郎	2
・『未来 ～ミライ～』	山 本 恵 太 郎	4
・未来へ～高齢化社会を実感して思うこと	内 田 秀 穂	6
・未来へ	有 住 裕 一	8
・未来へ	益 山 松 三	9
・未来へ	福 嶋 麻 里	12
・超音波に思うこと	魏 国 雄	14
・未来へ	吉 川 教 恵	16
追 悼 文		
・小牧一磨先生を偲んで	増 田 好 治	17
・百瀬寿之先生を偲んで	濱 中 秀 昭	19
医局長挨拶	坂 本 武 郎	20
准教授挨拶	黒 木 浩 史	21
第 7 回宮崎整形外科医学奨励賞		
・第 7 回宮崎整形外科医学奨励賞を受賞して	大 倉 俊 之	24
・第 7 回宮崎整形外科医学奨励賞を受賞して	小 牧 亘	26

同門会・医局行事

- ・西日本整形外科野球大会を終えて2012 -1軍- … 石 田 康 行 ……31
- ・西日本整形外科親善野球大会を振り返って-2軍- … 船 元 太 郎 ……32
- ・日整会野球大会を振り返って …………… 石 田 康 行 ……33
- ・日本整形外科学術集会親善サッカー大会 …… 森 治 樹 ……34
- ・平成24年度同門会ゴルフ大会について …… 森 田 信 二 ……35
- ・第15回 同門会テニス大会 …………… 弓 削 孝 雄 ……36
- ・マーじゃん大会のご報告 …………… 松 山 順 太 郎 ……37
- ・第8回帖佐杯 …………… 池 尻 洋 史 ……38
- ・野球検診報告 …………… 石 田 康 行 ……39
- ・「第8回学生のためのスポーツ医学セミナー」開催報告 …… 田 島 卓 也 ……41
- ・医局旅行 …………… 大 塚 記 史 ……43

新規開業

- ・開業しました …………… 本 部 浩 一 ……44
- ・新規開業 …………… 河 野 立 ……45
- ・健康の近代日本史と新規開業 …………… 松 元 征 徳 ……47
- ・新規開業 …………… 村 田 潔 ……49
- ・新規開業 …………… 福 元 洋 一 ……50

新入会員紹介(賛助会員)

- 自己紹介 …………… 松 山 順 太 郎 ……51

新入会員紹介(正会員)

- 自己紹介 …………… 岡 村 龍 ……52
- 一年を振り返って …………… 53
- 同門会総会議事報告書 …………… 57
- 教室同門の研究業績(2011年度) …………… 59
- 編集後記 …………… 81



雑 感

田 島 直 也

平成24年9月30日、75歳の誕生日を迎え、11月の宮崎市郡整形外科医会から立派な金盃を頂いた。いよいよ人生第4コーナーにさしかかった感がある。

70歳を過ぎる頃から各種の同窓会が多く開かれるようになった。平成24年9月は大学医学部の卒後50周年記念同窓会があった。卒業生86名中出席40名、鬼籍に入った人19名(22%)であった。又11月に小学校のクラス会があった。戦後の昭和20年代の小学校は1クラス70名であり、このうち出席した人は19名、鬼籍に入った人は16名(21%)であった。同年代では5人に1人亡くなっていることに

なる。又、同窓会に参加した人、しなかった人も約半数は何らかの疾患(病)を持っているようであった。小学校では自営業以外の人ほとんど年金生活、趣味ボランティアの生活が主であった。あと5年後はどうなっているだろうか。現実問題として今後どう生きるかが問題である。

医学部卒業生は小学校の同級生と違い、何らかの形で今迄の仕事を続けている人が多くみられた。しかし、いずれにしろ趣味、友人をもち、感激感動の心を持ち続けていきたいものである。過去を振り返らず、前向きに生きる事が肝要ではないかと思っている。



俺たちに明日はある

川野 啓一郎

午前6時。突然、ラベンダーの甘い香りが広がり、Jiroの鼻粘膜を刺激する。そして、ピアノの優しい音が耳元に。目を開けると、部屋中に広がるホロスコープのオーケストラ。ラフマニノフ ピアノコンチェルト第2番、第3楽章。アシュケナーズ風の演奏。Jiroの脳前頭葉に刺激が広がり、手足を動かすと指令が出る。今日も爽快な目覚め。伸びをして起き上がる。「うん？」ちょっとおかしい。喉の痛みが少々ある。少し熱っぽいようだ。

再びベッドに横になり、画面を「医療」をクリックし、ベッドを医療用ベッドに変換する。「バイタルサイン」をクリック。血圧、脈ともに正常。体温37.2℃。「検査」をクリック。そのまま寝た状態で、胸部X-Pを撮影する、異常なし。次に、血液検査。右腕を所定の位置に動かして、瞬時に採血。結果は著変なし。最後に「診断」をクリックすると画面と音声で、「感冒です」とアナウンス。「治療」をクリックし、中央医療センターからの薬剤をエアーシューターの前で待つ。薬を受け取り、クレジットカードの番号を打ち込む。

ドクターをクリックする必要もないだろう。Jiroはそのまま「シティートラフィックセンター」の勤務に出掛ける。

しかし、症状は改善せず、2日後より、38℃

台の発熱、咽頭痛、頭痛が持続。倦怠感、食欲低下も認める。

再び、医療用ベッドに横たわり、「検査」をクリック、体温38.7℃。咽頭発赤を強く認める。血小板 $10.8 \times 10^4 / \mu\text{L}$ と低下。WBC ($7100 / \mu\text{L}$)とCRP (0.4mg/dL)は正常。その他のデータも正常。

不安を覚え、今回は、「ドクター」をクリック。同時に今までのデータを転送する。「What can I do for you?」という文字とともに、マスコットドクターの映像が表れる。「ドクターにコンタクトを取りますのでしばらくお待ち下さい。」というアナウンス。

しばらくして、ドクターの音声。「40歳男性の方ですね。独身ですね。」

「はい」

「このデータを見るとカゼ症状ですが、ちょっと調べてみる必要がありますね。」「髄液の検査をさせて下さい。」「それではベッドに横になって下さい。操作はこちらで行いますので。」「ただちに腰椎穿刺が行われ、検体が自動的に中央医療センターに送られる。」

しばらくして、「細胞数608/3 μL (単核552多核56,)タンパク159mg/dL、糖42mg/dL、髄液中の細菌は陰性」という結果が画面に表れる。「単核球細胞が増え、タンパクが増加し、糖が低下しています。無菌性髄膜炎ですね。」

「もう少し、原因を調べさせて下さい。」

しばらくして、画面が明るくなり、ドクターの声。「急性HIV感染症という診断です。」「抗体は陰性でしたが、HIV-RNA定量検査では陽性の結果でした。」

「HIV初感染後の2～6週間で、一見感冒様の症状があります。これが急性HIV感染症です。」

「思い当たることがありますか？」

「それでは抗ウイルス薬を配送しますので御安心ください。」

Jiroは安心してベッドに横たわった。

場面は一変して、真っ青な空とどこまでも広がる紺碧の海。モルディブ諸島の南50km。インド洋の海上に、前世紀モデルの白いスマートなクルーザーが一艘。トローリングを楽しんでいる一団が見える。

「ドクターC、今日は、釣った数よりも大きさを勝負しようじゃないか」

「ええ、いいですよ。ドクターT」

その時、ピピッという呼び出し音、「ドクターK、お呼びですよ。」

ドクターKはキャビンに入り、ホロスコープの連絡板を見る。“110歳女性の大腿骨頸部骨折”「分かった。オペ室に運んで準備をしてくれ」「ボーンコネクターゲルの注入方法はこちらでプログラミングするからデータを送ってくれ」

データを見ながら、「今回はiPSタイプIIコラーゲンユニット2でいこうか」と軽快な声でメッセージを送る。しかし、プログラミングを開始して間もなく、異常を知らせるアラーム音！

「リ・リ・リ・リ」「リ・リ・リ・リ」

「何だ？ どうした？」 ???

午前6時、畳の部屋で目覚ましベルが鳴っている。「やれやれ夢か」ひとつ伸びをして起き上がる。

「今日は土曜日か。午後から同門会だな。」

参考文献：

Watanuki S. ERレポート救命救急事例報告：Medical ASAHI 61-63,2012



『未来 ～ミライ～』

山本 恵太郎

2012年8月から宮崎江南病院に主任部長として赴任しました。1999年7月に大学に戻って、スポーツ整形外科を13年間させて頂きましたが、無事に次の代に引き継げた由、同門会の先生方をはじめ皆様へ感謝の念で一杯です。今後は関連病院の一翼として微力ながら貢献できればと思っています。ただ、関連病院のトップで勤めてみると、大学もいろいろ大変でしたが、外の勤務も別途大変なことがあるとつくづく思います(当然、開業医の先生方のご苦勞も察します)。各々の立場を理解しあって、しっかりと共存していくことが、同門会や医局の発展、ひいては地域・社会に貢献すると思いますが如何でしょうか？

前振りが偉そうで大変申し訳ありません。お題“未来”を頂きました。

<未来ちゃん>

宮崎在住で、拘束型心筋症を患う 大林未来ちゃん、まだ7歳のニュースがありました。親御さんたちのメッセージがこもった名前とお見受けしています。生きていくためには心臓移植をしなくてはいけないのに、今の日本ではできません。日本でできる技術がありながら、海外に行かなければ手術ができない…。近未来のできるだけ早期に法が整備され実施できることを願います。未来ちゃん

の募金活動がありましたが、自分の末っ子(4歳)も大変というのがわかっているのか、募金箱を見つけては、「入れるからお金頂戴」と、少しずつ入れていました。4月末に渡航するとの報でしたが、無事に手術ができて、元気な笑顔で帰国されることを願うばかりです。

<山本家の未来>

子供は野郎ばかりの4人で、去年は高校生・中学生・小学生・幼稚園生の4世代に散らばっていました。未来どころか、現在(イマ)が大変です。自分の最近の趣味というか休日は、末っ子と公園・動物園や様々なイベント・祭りなどに一緒に出掛けています(他はほったらかしです)。写真の二人を見かけたら声をかけて遊んでやってください。



<ミライ>

末っ子に“ミライ”って何だ？と聞くと、直ぐに“ウルトラマンメビウス(主人公の名前が、ヒビノ ミライ)”と返ってきました。父親の遺伝子か、チビたちはほとんどウルトラマン経由で育ってきました。自分の生まれた1966年からウルトラマンが放映され、長男が生まれた1996年に熊本にウルトラマンランドが開園、幾度となく遊びに連れて行きましたが、今年の夏でウルトラマンランドが閉園との事、寂しい限りです(末っ子はまだ2回しか行けず、ラストの夏休みは最後の思い出作りになりそうです)。こどもに夢を与えたり、楽しませることに社会が向いてくれることを願うばかりです。ウルトラマンゼロの曲名より引用：“キラメク未来は 君の瞳の中”、大人もしかりだと思います。

<一整形外科医として>

整形外科医として、当然外科的治療の研究も必要でしょうが、ロコモティブシンドロームや骨粗鬆症などの予防医学が、今後ますます重要になってくると思います(医者とお坊さんは暇が一番です)。2005年度から「運動器の10年」日本委員会は事業の一つとして「学校における運動器検診体制の整備・充実モデル事業」を開始し、2007年から宮崎でも学校における運動器検診を始めました。『“未来”ある子どもたちの健やかな成長を願って』と帖佐教授の強い意向があり、6年間で、のべ28256名の児童・生徒(2007年度5校1564名→2012年度は87校9314名に拡大実施)をチェックしています。2013年度も更に拡充予定です。ただ、まだまだ十分なシステムではなく、迷惑をかけているかもしれませんが、是非同門の先生方にも、もっと

もっと関心をもって頂きたいです。整形外科医の先生の多くは学校医になっておられず、学校の検診に慣れていないかもしれません。二次検診の結果記入一つにしても、入力する当方でも分からない文字で書かれていたり、専門用語の羅列のみされていることがあります。回答は本部(大学)だけでなく、子ども本人・保護者宛てにもなります。二次検診として医療機関を受診された際は、意義ある回答・指導を切にお願い致します。また、是非多くの先生方に学校現場で協力して頂ければ幸甚です。宜しくお願い致します。

相変わらず、とりとめのない文章を書いて申し訳ないです。最後に、自分の未来に向けて、「これからの人生で、今が一番若い！(ローマ帝国学者カトー)」をモットーに、ガタが来始めた身体ですが、いろんな事にチャレンジし頑張っていきたいと思えます。

年度	2007	2008	2009	2010	2011	2012
地域数	1	2	2	1 (合併)	4	5
参加校数 (校)	5	16	26	35	67	87
実施数 (名)	1564	2179	3906	4450	6841	9314





未来へ～ 高齢化社会を実感して思うこと

済生会日向病院

内田 秀 穂

平成22年4月に済生会日向病院に赴任し、早いもので約3年が経ちました。日向病院という名前ではありますが、この病院は門川町にあり、患者さんは、門川、日向を中心に、延岡、美郷町、さらに椎葉村からも来られます。現代は高齢化社会と言われ始め、ずいぶんになります。この病院に赴任して、まさに高齢化社会の深刻さを実感しております。老々介護をされているご夫婦や、一人暮らしのお年寄り、けっして珍しくありません。一人暮らしのご自宅で転倒して骨折のため動けなくなり、翌日発見されたというケースもよくあります。平成22年4月から平成25年3月までの3年間に当院に入院したのべ患者数は4874人で、整形外科入院患者は1479人でしたが、そのうち75歳以上の高齢者は752人で、整形外科入院患者の51%を占めていました。高齢者は入院時合併症を有していることがほとんどで、入院後それらの増悪や、あらたな疾病を合併することも少なくありません。この病院も含めて、医師の絶対数が少ない地域の施設では、すぐに専門医にコンサルトするということができず、とりあえず自分たちで何とかしなくてはならないことも珍しくありません。治療が功を奏して何とか退院できる状態になったとしても、今度はどこに帰すのか、という大きな問題が残っています。そ

の後のフォローをどうするのかをしっかりと計画しておかないと、せっかく入院して治療したことがすべて無駄になってしまいかねません。結局、これらの問題は、地域の各方面が幅広く連携して取り組むべき総合的な医療活動、いわゆる地域医療の重要性を示しているものと思われま

現在、最先端の医療技術として、再生医療がよく話題になっています。いずれ失われた臓器を再生できるようになる夢のような技術も日常的に行われる未来がやってくるのでしょうか？血管や神経、さらに軟骨の再生も可能ということになれば、現在整形外科が行っている四肢切断術や、人工関節手術なども、過去にはこんな治療をしていたのか！と、驚かれるようになるのかもしれませんが。

まあ、しかし、そんな夢のような技術が現実のものとなるには、まだまだ時間が必要と思われま

す。少なくとも私が何とか働けるうちには実現しそうにありません。今後、高齢化社会がますます進むであろう地域医療の現場に戻ると、明るい未来を思い浮かべることはなかなか難しい状態です。しかし、これだけ多くの高齢者が整形外科の治療を必要としていることは現実であり、今後も地域医療において整形外科が重要な役割をはたすことが、ますます期待されるようになってい

くものと思われます。夢のような未来技術が
実現して素晴らしい未来に老後を送れるよ
うになることを期待しながら、今は自分にで
きる技術で少しでも高齢化社会の地域医療
に貢献できればと思っております。





未来へ

医療法人創起会 くまもと森都総合病院
有住裕一

『未来へ』というテーマをいただきました。しかし私の未来について述べるに足らずは、残された未来の時間はあまり多くないのかもしれない。44～45歳の平均余命が36～37年くらいらしいので、すでに折り返し地点は通過しているのでしょうか。未来への願望というならば、日々平穏でストレスレスなスローライフを送ることでしょうか…。

未来といえば、私の現在の勤務先である「くまもと森都総合病院(旧NTT西日本九州病院)」は、そう遠くない未来に現在地より500mほど離れた場所に新築移転するらしいです。私ども一般職員にはまだまだ詳細が伝わってこないのですが…。

同門会誌のテーマであるからには、私よりも若い先生方への未来へのアドバイスなどを記さなければいけないのかと思いましたが、先輩方を差し置いて私が何かを述べるのは差し出がましいし、というよりアドバイスができるような経験もなく立場でもありませんので、それは控えさせていただくことにします。

困ってしまったので、某検索サイトで「未来へ」と入力してみました。まず始めに、女性2人組の音楽グループKiroro(キロロ)の、1998年に発売されたシングル曲「未来へ」に

ついでにの事項が数多くヒットしました。「ほら足元を見てごらん これがあなたの歩む道 ほら前を見てごらん あれがあなたの未来」という歌詞で始まるこの曲は私もよく憶えており、イントロだけなら口ずさむこともできました。このイントロに続く歌詞やメロディはよく憶えていなかったのですが、あらためて見て聴いてみると、昔聴いていたところと違って何かしら心に響くものもありました。これは歳を重ねてしまったからなのでしょう。

検索で次にヒットするのは、先の震災に関連した事項でした。私自身は震災後、というより震災前も東北地方を訪れたことがあります。遠くない未来に一度は訪れて、何かを感じておかなければと思いました。

その次は、と思いましたが、これ以上書き続けても諸先生方のような奥の深い、また機知に富んだ文章を書くことができないので、このあたりで終わりにさせていただこうと思います。作文は昔から苦手なもので申し訳ありません。

最後になりましたが、これからは宮崎大学医学部整形外科教室同門会に明るい未来が広がりますように…。



未来へ

益山松三

未来へ???

ゴルフと飲み会とちょっとだけ仕事に明け暮れていた私も、昨年不惑を迎えました。行き当たりばったりの生活を続けてきましたが、前厄を迎えたとたんにバネ指(手術)、発作性心房細動、腰部脊柱管狭窄症、痔ろう(手術)と複数の病気をいただいてしまいました。

長年の不摂生による自業自得とはいえ、やはり憂鬱な気分は避けられません。尊敬する松元、本部両先生の開業までのプロセスを目の当たりにし、今後も勤務医として続けられるのか、だからといって開業して家族を養っていけるのか?健康だけでなく将来への不安も強い近況では、今回の(未来へ)というお題にはどうしても明るいイメージがわからず、非常に酷なものでもありました。のっけから愚痴だらけの文章になってしまい、同門会の皆様まで嫌な気分させて申し訳ありませんが、そんな途方に暮れていた時に、若かった時の自分から見たら今の自分はどのだろうか?とふと思いました。前述のごとく本業の疎かだった私が、少しは勉強するようになったのも、色々な先輩方に指導していただいたおかげであります。とりわけ医師会病院での神菌塾時代はかけがえのないものだと思っております。お題からは遠く離れてしま

いますが、あの月日があったからこそ少しは軌道修正された今の自分があることに感謝を込めて書いてみたいと思います。

神菌塾は、毎朝のモーニングカンファから始まりました。前日に撮った画像を師匠のチェックをいただくため、結構離れたところにある病棟から医局まで運ぶ作業から始まります。フォローアップの画像はあまり問題ないのですが、新患さんの画像や夜間帯に入院された方のプレゼンは大変でした。足関節回旋骨折ならLauge-Hansenの何型、天蓋骨折ならRuedi、脛骨高原ならSchatzkerといった具合に、正確なclassificationを述べた後、それぞれのclassあるいはglade別の治療方針を述べます。理学所見評価とその他の合併症や既往症の有無などと照らし合わせた結果、手術適応であるならば、どのようなimplantでどのようなapproachでどのtimingでやるか、をさらに述べなければなりません。日本語の教科書では許してもらえず、全てRockwoodを読んで要約しなければダメでした。今でこそ前述のようなpopularな骨折については分かりますが、当時は月状骨周囲脱臼の画像を見ても何だこれ???でしたので、新しい外傷が来るたびに勉強が必要で、それが夜間の患者となると一層大変な日々でした。ここで気づかれたかもしれませんが、この文章やた

らにmedical termが多くてイラッとしますよね？これも師匠の影響で鉤状突起ではなくcolonoid、橈骨頸部でなくRadial neck。解剖名は特に英語で答えないと、相手にされません。しかし宴会になると日本酒を利き酒しながら飲むことを強要されることに矛盾を感じた安藤ならぬアンドゥー先生は自分の送別会の夜に、終に師匠に反旗を翻し、アンドゥーの乱を起こしてしまいました。赴任当初から、一番弟子のS月先生と常日頃から比較され、(S月K野の時代はよかったなあ～)と侮辱的な発言を受けたり、師匠と慕っている私と全く慕っていないアンドゥー先生への扱いが違うなど、大きなストレスがあったのでしょう。最後の送別会での3次会で口論となった二人は別々に店を出ることとなってしまいました。しかし翌日にはゴルフ同伴の予定が入っており、(アイツ来るかなー)とお互い微妙な空気で互いに来場。結局仲良くラウンドした結果、壊滅的な関係悪化は防げたようです。ああ～めでたしめでたし。

オッここで終わるわけにはいきません。半年経過した後、医師会病院は念願の4人体制となり、野崎king(ノザキング)こと野崎先生と、誰からも(ジリ)と呼び捨てにされる池尻先生が赴任されました。キングというニックネームですが、野崎先生の方は同級生のKing 田島ことタジタク先生と違って、大きなベルトなどは好まれませんでした。とても穏やかで優しい方でした。私の父が膀胱を患い、急に休みを取りたいときにも笑顔でオンコールを引き受けてくれたことは、今でも忘れません。また2次会で先に帰る時はいつも2万円置いてくれたことはもっと感謝しています。ノザキングありがとうございました。また入局した時から(ジリ)1年目の医局対

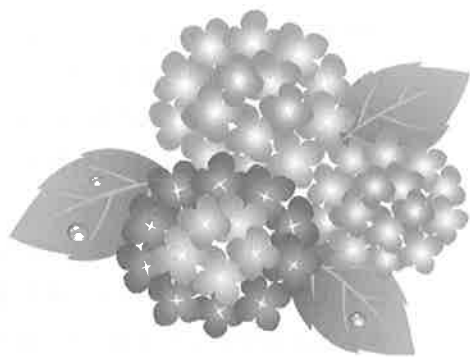
抗でA級戦犯となった時も(ジリ)16年経ち、帖佐杯の幹事をたどたどしく仕切り終えたときも(ジリ)の愛称で親しまれる池尻先生は、実は専門医試験を県内最高得点で取得されるほど優秀な方です。しかしその親しみやすい風貌が原因なのか？三水会などで正論を述べても、スルーされている気がするのは私だけでしょうか？池尻先生、今後はもう少しだけ、ハキハキとしゃべってみてください。

許可も得ずに勝手に脚色して書いてしまいました。私にとって本当によく学び、よく飲んだ1年半でした。何よりも良いメンバーに恵まれて本当に楽しく懐かしい日々です。

神菌先生の指摘は重要なポイントだけに限られ、またこちらの質問への答えは常にクリアカットでした。師匠の厳しい指導のお陰で、今でもRockwoodなどの教科書をよく読んで治療にあたる、なるべく軟部組織に易しい低侵襲の手術を選択する習慣が続いていると思います。しかし私自身も食事に行くといつ日本酒を飲んでしまうこと、しかもそれを後輩に強要すること、患者さんへの説明の際なぜか標準語になること、そのとき合併症が主に3つありますと言って何故か小指から順に環指、中指と立ててしまうこと、酔っぱらってくると必ず相手に太い示指をさして罵倒することetcなどは師匠への尊敬が強すぎた故の合併症であり、後遺症として残存しておりますが、今後も上手に付き合っていくしたいと思います。

ここまで一気に書き上げましたが、前述のとおり未来という希望的なお題から、あまりにもかけ離れており、掲載された時が心配です(苦笑)更年期を迎え？精神的なバランスを

欠いているのかもしれませんが(苦笑×2)。さら
に関係者の方々、無許可で身勝手かつ無礼な
文章を書いてしまいました。広い心でどう
かお許してください。いつにも増しての長文乱
文失礼いたしました。ではでは。益山 拝





未来へ

医療法人 岡田整形外科
福嶋 麻里

未来と聞いて思い浮かぶのは、まずは自身の子供たちのことです。

ありがたいことに私は今、自分の育った地で子育てと仕事をさせてもらっており、これ以上ない環境に日々感謝しています。(これはひとえに帖佐先生を始め医局の先生方、両親、夫のおかげです。)

子育ては大変なこともあります但那都度、“将来この子供たちが自分の力で生きていけるように”という原点に立ち返って考えるように、と幼稚園の先生に教えてもらいました。実際はそううまくいかないことがほとんどですが・・・でも本当に子育ては、未来へ向けての大人の仕事だと思います。自分自身が育ててもらった地元で働いているので、なおさらそう思います。

それと同時に、平成22年から介護事業所の仕事にも関わるようになり、最初は何が何やらさっぱりわからなかったのですが、大塚町にサテライトである「おおつかの杜」を立ち上げました。ここは整形外科クリニックと介護の通所・入居施設が共存している場所なのですが、開所時に父が言っていた「4番目の子供だと思って」という言葉を常に抱きながらここまでやってきました。要するに私が(一人でではないですが)育てなければいけないんだと思い、たくさんの方たちの協力を

得ながら手探りで何とか進んでいます。

クリニックでは整形外科を標榜しながらも、当然のように高齢者の生活が身近にあるため、生活全般で起こる様々な場面に対応しなければなりません。いつのまにかシーネをあてるより、聴診をしたり導尿をする回数の方が断然多くなってしまいました。

介護保険の制度についても、毎日のように対応しなければならぬため、自然とわずかですが詳しくなっていました。時々、医師ではなく介護事業所の何かの担当者だと思われることもあり、まあいいか、と思いながらやっています。(研修医のころによく看護婦さん～、と呼ばれていたことを思い出します)

しかし、正直これでいいのかなあと思うことが介護現場ではたくさんあるのです。もっとこんな風だったらいいのに、とか制度上仕方がない、など。特に、医療と絡んでいる部分では納得いかないようなことが多々見受けられます。そんな中でつくづく思うことは、自分も含めてみな将来は高齢者になるということです。不本意にも自分の力で自分の生活を支え切れなくなる日が、必ず来るのです。

それで今自分がやっていることは、将来の高齢者=自分自身につながっていると考えて

います。大それたことはできなくても、自分がおばあちゃんになったときに過ごしてもいいと思えるような環境作りをやっていきたい。自分だったらどう思うか？と問いながら現場では物事を判断してやっていこうと思っています。もちろん、自分が整形外科医だということも忘れないように、地域医療で貢献ができるように、日々そういった努力もしなければなりません。

未来へ向けて、子育てと高齢者の環境支援と自身の切磋琢磨と！忙しくも充実した毎日を、本当にありがとうございます。





超音波に思うこと

魏 国 雄

昭和53年頃、当時、市立宇和島病院に、勤務していたのですが、整形外科同僚の一人(K.Dr)が、XPにうつらない、指に刺さった異物を超音波で見つけ、整形外科領域での、超音波の有用性を強く、訴えていました。整形外科病棟が70床有り、日々忙しくしていましたので、そんなことに関わっている余裕がないと、私は聞き流しておりました。今から、考えてみますと、当時、日本整形外科超音波研究会がまだないころですので、K.Drは、非常に、先見の明があったのだと、再評価せざるを得ません。

その後、赴任した病院の整形外科部長が、超音波に関心を持っておられ、時々、肩などを見ておられました。それに触発されて、プローベを手にとってみたのですが、何を見ているのかさっぱりわからない。

そのうち、とるべき手順がわかってくると、何を見ているかがわかり、初めて見る軟部組織の病態に驚きを感じるようになりました。

あるとき、数日庭仕事をした後、膝窩部痛を訴えてこられた女性がおられ、その膝窩部を見てもみますと、膝窩筋が膝窩動脈を後方に圧排するほど、顕著にtumor状に、腫大している所見が見られました。膝窩筋腱は、関節鏡では、外側半月板中後節の外側を通り抜け

る像は、馴染みがあるのですが、筋そのものが、通常の診療で、問題意識にあがってくることはなく、そんな馴染みの薄い筋肉に、このような病態が生じるのは驚きでした。

筋肉は、overuseすると、腫脹するものなのだろうか。また、何故、忘れ去られたような、この筋肉が、選択的に、このような病態になるのだろうかと次々に、疑問がわき、わかっていたような筋肉について、何も知らない自分に気付き愕然としました。

その後、腕立て伏せを頻回に、やったあと、両上腕三頭筋部の痛みと腫脹を訴えて中学生男子がきました。みますと、上腕三頭筋短頭の顕著な腫大と筋構造の完全な喪失の所見(横紋筋融解症)の所見が見られました。

とすると、筋肉は、やはりoveruseすると腫脹し、究極的には、筋構造の崩壊=筋壊死につながると言うことになります。経過を見ておりますと、3週後には筋構造の再構築がみられ、6週後には、ほぼ正常な筋組織になるのが観察されました。

このことから、筋肉は、再生でき、その再生能力は、強いということになります。筋肉の再生ということは、考えもしていなかったもので、これも私にとりましては、驚きでした。レースに出た後のサラブレッドの筋肉を組織学的に調べた報告では、筋細胞は、散在的

に、びまん性に、壊死を起こしている所見が見られると報告されています。つまり、筋肉は、一部、overuseにより、壊死と再生を繰り返しているということになります。激しい運動をした後、数日後に、あらわれるsorenessもこれによるものようです。

外科的に、筋線維を切離し再縫合しての筋肉再生の動物実験の報告では、3～4週間の固定が必須であると報告されています。一方、先述した上腕三頭筋の例では、特に固定をせずに再生している。overuseによる筋再生は、このような外科的縫合後の再生とはどうも違うように思えます。

これは肉離れの場合でも言えるようです。筋腹で断裂した症例では、みるみる、ほぼ正常な筋組織に再生していく場合が多く見られます。一方、筋腱移行部の断裂は、完全に修復することなく、腱と退縮した筋組織との間隙は、癒痕組織で埋められて治癒します。筋腱移行部の肉離れは、元の正常な組織に戻ら

ず、癒痕によって置き換えられて、治癒するというのも私にとって、驚きのひとつでした。

筋肉一つをとりましても、このような、外観からは、想像もつかない、病態が隠されており、それが見えるということが、超音波の魅力かと思えます。

このことは、腱・靭帯・Enthesisのそのほかの軟部組織にも言えることと思えます。

組織の質的变化に関しては、超音波は、とてもMRIに及びませんので、超音波上、異常が無くても、その組織に異常が無いとは言えず、超音波の過信は、禁物です。しかし、解剖学的構造の変化に関しては、超音波は、MRIを遙かに超えています。今回のテーマ未来へに関連して言えば、超音波診断学は、Bモードの解像力の進歩により、より微細な組織構造が描出され顕微鏡による病理組織診断のように静止画像の拡大による観察も可能になるかもしれません。



未来へ

都城病院

吉川 教恵

毎日忙しく1日が過ぎていき、仕事、子育て、仕事、子育ての繰り返しの日々を過ごすのに必死で、あっという間に1年が過ぎていく。そんな私に、同門会誌への寄稿依頼。しかも、そのテーマは「未来へ」。今を生きるのが精一杯なのに、未来なんてとても考える余裕あるわけじゃない！整形外科医としての将来さえも不安なのに。。。と、投稿から目をそらしていたのですが、寄稿の再依頼が届き、締め切りが(T_T)。さすがに、医療や整形外科の未来について大それた事は書けないので、子育てについて書いてみようかなあ、と思っていたとき、博報堂こそだて家族研究所の研究員の書いたコラムが目についたので、ご紹介します。

このコラムは、9歳以下の子供をもつ20～40代の既婚女性に対し、子育て中の家族の意識や実態把握のために施行された、家計についてのアンケート結果をまとめたものです。常識的な事かもしれないですけど、家計管理って、約7割の世帯でママが握っているんだそうです。うちは少数派(6.5%)の夫婦別財布派。性格がてげてげの私に2人分の管理な

んて面倒くさい事ができるわけなく、10年余りの結婚生活を夫婦別財布でやってきましたが、別財布だと、なかなか貯蓄が増えない印象です。未来のためにはよくないですね(^^;)。私が興味を持ったのは、子育てママの支出の傾向です。今ほどお金をかけたくない意向がみられたものは、食品、日用品、住居、自動車関連など。逆に今よりお金をかけたい意向がみられたものは、貯蓄、子どもの教育、夫へのプレゼント、家族との旅行・お出掛けなどです。日常生活での消耗品は節約し、家族の未来に向けての基盤をつくるものに投資する。少し景気が回復傾向にあり、未来への投資の余裕がでてきたって事でしょうか？いずれにせよ、夫のプレゼントや家族旅行など家族や夫婦の絆を強めることに投資するのは、大賛成！です。いずれ私の手から離れていく息子達はもちろん、老後まで面倒をみてもらわなきゃいけない主人にもしっかり投資しなきゃ！と思ったと共に、世の旦那様方の支出傾向も知りたくなったアラフォーの春でした。



小牧一磨先生を偲んで

(医) 陽明会 増田病院
理事長 増田好治

先生は、昭和38年鹿児島大学医学部を卒業され、インターン修了後、鹿児島大学医学部整形外科に入局し、鹿児島大学医学部整形外科助手、鹿児島県立大島病院部長、鹿児島大学医学部整形外科助手ののち、国立鹿児島病院、小林市立市民病院整形外科部長を勤められ、昭和50年5月から小牧整形外科医院を開業、昭和60年から小牧病院として再編成し、現在に至っておられます。

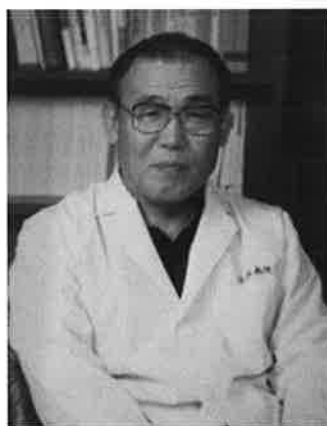
開業以来、医師会活動にも参加され、平成6年から都城市北諸県郡医師会理事、平成12年4月～平成17年3月まで副会長、その間、平成14年4月～平成17年3月までは、宮崎県医師会理事も務めておられました。

宮崎県医師会労災部会においては、平成18年4月から理事、平成22年4月より同部会長も務められました。この数年間の闘病生活を余儀なくされた中で、先生に部会長の責務を負わせてしまった事が、非常に負担になったのではと、同じ労災部会理事として、心苦しく思っていました。先生のお話では先生の思いの中で、最後のお勤めと張り切って宮崎市まで出向いて下さっていた様子をお聞きして胸を撫で下ろした思いです。

同級生として大学6年間、その後の入局先

は別でしたが、外科系で隣同士の道を歩いて来て、特に鹿児島県立大島病院ではお互いにキャップとして過ごした日々を振り返ってみると、趣味や道楽に無縁な感じの先生は、病院の仕事が一番の道楽ともいえる程ご熱心で、小病院の悲哀も楽しみを込めて仕事して来た事と思います。特に飾り立てる事もなく、構える事もなく、一途に生き抜いた生涯の姿勢は多くの人々に恩恵を与えた事と思います。

永い間ご苦勞様でした。安らかにやすみ下さい。



追伸、本文を述べるにあたって、ご子息の小牧亘先生より寄せられた先生を偲ぶ一コマを紹介させていただきます。

父とのエピソード

小牧 亘

県外に進学した私に会いに来た際、普段行ったことがない「コンビニに行く」と言い、パン等の食料品をカゴいっぱいを買ってくれた。普段食事もとっていないのではないかと心遣いであった。全く飲めない父であったが、夏休み等で大学から帰省した私には350mlの缶ビール、自分は135mlの缶ビールを用意していた。飲めないなりに息

子と晩酌がしたかったのだ。「乾杯」と缶をぶつけ、喜んでいた。入局した時も、同門会の際、医局の同門の先生方に「息子をよろしく願います」と頭を下げ、お酒を注いで回っていた。照れながらも嬉しそうだった。

～父は人から好かれる人でした。以上のようなキャラが周囲の方々に好かれた所以だったと思います。

小牧一磨先生は、平成24年10月18日、73歳の生涯を閉じられました。ここに謹んで哀悼の意を捧げます。



百瀬寿之先生を偲んで

濱中 秀昭

百瀬寿之先生におかれましては、病氣療養中のところ、平成25年2月12日、胆嚢癌のために百瀬病院においてご逝去されました。享年90歳。プリエールはまゆう 日南斎場で営まれた葬儀には病院関係者をはじめ、多数の参列者が集われ、故人のご冥福をお祈り申しあげました。

私が、百瀬病院で先生にお世話になったのは平成13年8月から平成15年3月までの2年間でした。それまでは整形外科医が複数在籍している病院勤



務であり、一人で整形外科を標榜する病院は初めてで毎日、一人で教科書を調べながら診療にあたっていたことを思い出します。皆さんのご存知の通り、百瀬病院は南郷町にある救急指定病院で救急車の受け入れも多く、整形外科疾患だけでなく内科や外科などの広く疾患の知識が要求される病院でした。そのため、当直をした際に悩むことが多くあり、そんな時にいつも助けてくれたのは百瀬寿之理事長先生でした。(もちろん文教院長先生や内村先生にも大変お世話になりました

…)寿之先生は、早朝から夜遅くまで病院に勤務されており困ったときには、「先生、私が診ておきます。」といつも優しい笑顔でお声をかけていただいたことは今でも忘れません。またお歳以上にお若く、オープンカーのBMW(Z3だったような)で颯爽と通勤されていたことを思い出します。百瀬病院に2年間勤務させていただきましたが先生に対して不満のあった職員は皆無でした。先生の人柄があったからこそ今の百瀬病院があると思います。先生の地域医療にかける思いが現在の百瀬病院をここまで発展させたと思います。先生の意思を次いで、長男である百瀬文教先生と長女である佛坂朱美先生が今後も病院を盛り立ててくれると信じています。寿之先生は安心してお休みください。私も機会があれば、もう一度勤務させていただければと思っています。

百瀬寿之先生の偉大なご生涯をたたえ、御霊のご冥福をこころよりお祈り申し上げます。





医局長挨拶

坂本 武郎

医局長に任命され早1年が過ぎました。想像していた以上の激務で胃薬がお友達となり、以前は低血圧だった血圧も立派な高血圧となりおかげで寝起きがよくなりました。まあすべて年齢のせいかもしれませんが…。

さて今年度は1名の新入医局員を迎えることができました。岡村先生はバリバリの即戦力として早速活躍いただいております。また福岡の方で研修していた山口先生が2年ぶりに帰ってきてくれました。

しかしまだまだ開業される先生、都合により休まれる先生などの数に追いつくことができず、毎年実働人数は減っていく苦しい状

況が続いております。大学医局では今後とも学生・研修医への情報提供・勧誘を積極的に行い医局員確保に努めたいと考えております。また同門会の協力も得て各病院での勧誘も応援していきたいと考えますので、各施設にて勧誘会を企画してくださる際は事前にも私までご連絡ください。

同門・関連病院の先生方からの増員要請にもなかなか応えることができずご迷惑をおかけしておりますが、なんとか環境改善へ向けて努力して参りますので今後ともご協力・ご支援のほどよろしく申し上げます。



准教授挨拶

宮崎大学整形外科

黒木 浩 史

平成24年11月1日付けで准教授に昇任致しましたので、ご挨拶させて頂くと同時に医局の現状を踏まえて今後の抱負について述べたいと思います。

平成22年3月一杯で前准教授の久保紳一郎先生が大学を辞されたあと、当時講師でありました私が、脊椎班のチーフとともに整形外科副科長として診療科の管理運営そして学生教育担当など多くの業務をすでに引き継いでおりましたので、今回役職が変わったことで大きく仕事量が増えることはありませんでした。しかしその内容には微妙な変化がありました。一つは、辞令交付式の際、医学部長から頂戴しました訓示から感じ取られました。それは「大学は今、存亡の危機に立たされているので、現状を維持するため大学の存在意義を顕示すべく努力するように」とのお言葉で、これによって今後なお一層大学研究者としての働きが求められることを実感しました。そしてもう一つ、平成25年3月に初めて医学部医学科入試の面接官に任命されました。この仕事は大学医学部教員として将来医師として育てるべき適正を持った人物を正しく選択する非常に重要なものです。ここで如何に意欲があり医師として国民に資する能力を持ち合わせた受験生を見極め入学させるかが、未来の日本の医療の質の向上に

かかってきます。これら2つの事柄は、大学医学部業務の3つの柱である診療、研究、教育のうち、今後は後者2つへの比重が高まることを意味します。

ここで大学医局の現状を顧みてみますと、確かにこの10年の間に外来患者数や手術件数は増加し、一見活気に満ち溢れているようにも見取れます。しかし大学病院としてこれで本当に良いのでしょうか。私が入局しました約20年前は、臨床教育上大変重要なカンファレンスにしても、現在かろうじて行われている術前、術後にとどまらず入退院、外来患者の検討会が全医局員参加のもと開催され、一つ一つの症例から手術に関するだけでなく術後経過を含め多くのことを学ぶことができました。また今では事実上消滅した英語論文の抄読会のみならず若手医師が担当する英文教科書の輪読会もありました。現状、若手医師が英文に触れる機会が失われているか大変憂慮しています。そして学会発表前の予演会も激減し、リサーチカンファレンスで今教室においてどのような基礎研究が進められているかを知ることもなくなりました。時代の流れによるものなのでしょうか。

大学医局で当たり前に行われるべき教育システムが完全に崩壊したこのような異変

は、学問、医術の継承に多大な支障をきたしていると思われまふ。教室で行われている研究の内容や現状に触れたり、多くの論文に目を通したりしなければ、若い先生方が自ら研究に興味を抱き論文を作成することはないでしょう。事実、若手医師が投稿規定に沿って正しく論文を執筆する能力のみならずその上級医師が論文指導を行う能力も近年、著しく低下しています。また医術に関しましても、中堅医師がある一定期間、集中して経験しなければ引き継がれることはありません。私が所属する日本脊椎脊髄病学会には脊椎脊髄外科指導医という認定制度があります。脊椎脊髄手術は一瞬の判断ミスで永続的な四肢麻痺という高度な機能障害を発生しうる中枢神経を扱う大変難易度の高いものです。ですからその資格認定のためには、脊椎脊髄疾患に関する5編以上の業績や執刀200例以上など知識、技量に関する厳しい条件がありますし、またその維持のためにも、学会参加や研修講演受講の他、一定期間内の手術実績が求められます(表1)。宮崎県で本資格を取得するためには、多種多様の脊椎脊髄手術を手掛けている県内の施設が限られている実情もあり、恐らく大学病院での最低5年間の研修が必要と考えられます。現在、名誉脊椎脊髄外科指導医であります田島直也名誉教授を除く宮崎県内の脊椎脊髄外科指導医は9名(表2)と全国最低レベルであるにもかかわらず(図1)、この資格取得に向けて大学で研鑽を続けている医師は皆無です。開業してしまえば資格継続は難しく、この先宮

崎県から一定水準の脊椎脊髄手術を行える資格を持った脊椎脊髄外科医が絶滅する時期もそう遠くないでしょう。私自身、脊椎脊髄外科指導医の育成という職責を果たすべく日々指導を行っておりますが、無計画な医局人事に阻まれ全く努力が報われることもなくやりきれない思いで一杯です。

今こそ10年先、20年先を大局的に見据え、宮崎県の整形外科医療の充実のみならず大学の存続のため皆が知恵を出し合い一致団結しなければならないと思います。その目的達成のためにはまず大学教官が大学に本来求められている学問を究め人材を育てるという原点に立ち返り、率先してリーダーシップを発揮し、診療、研究、教育、すべての領域において独自性を持った魅力ある姿を各自が日常行動で示すことが重要です。そうすることが新人医師の獲得のみならず医局員退局の歯止めに繋がるに違いありません。付け焼刃的なその場しのぎの対策では焼け石に水にしかありませんし、上辺だけの言葉に共感する人はいないでしょう。将来のキャリア形成のビジョンさえ描けない未来のない場所に誰が身を投じ留まり続けるのでしょうか。これ以上、負の遺産を積み上げるわけにはいきません。

教室の維持発展のため、何の力もない立場ではありますが私も日々危機感を忘れず、皆がやりがいを持って集える環境作りに貢献できるよう努力を継続して参りたいと存じます。今後とも御指導の程、何卒宜しくお願い申し上げます。

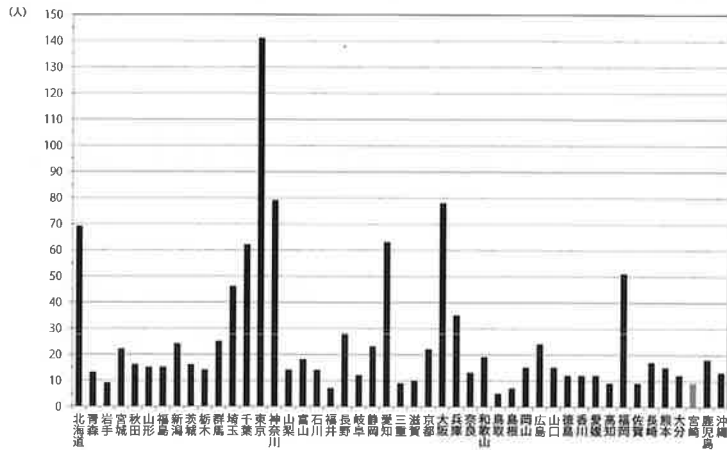


図1 都道府県別脊椎脊髄外科指導医数(平成25年3月現在)

表1 脊椎脊髄外科指導医申請要件

■新規申請要件

1. 日本整形外科学会認定脊椎脊髄病医であること
2. 執刀医または第一助手としての脊椎脊髄手術実績が300例以上あること
そのうち執刀医としての症例が200例以上あり、内訳は頸椎部が20例以上、腰椎部が60例以上あること
3. 一定期間の間の日本脊椎脊髄病学会に2回以上に参加していること
4. 脊椎脊髄疾患に関連する業績が5編以上あること（共同演者・共著可）

■継続申請要件

1. 日本整形外科学会認定脊椎脊髄病医であること
2. 指定する期間内に執刀医または指導的助手として担当した脊椎脊髄手術症例が200例以上あること
3. 本学会が認定した医療安全対策・感染予防対策・倫理等に関する研修単位を1単位以上取得していること
4. 指定する期間内に2回以上日本学会学術集會に出席していること

表2 宮崎県の脊椎脊髄外科指導医（平成25年3月現在）

（敬称略）

阿久根 広宣	（県立宮崎病院）
久保 紳一郎	（野崎東病院）
黒木 浩史	（宮崎大学病院）
後藤 啓輔	（ごとう整形外科）
花堂 祥治	（橘病院）
濱中 秀昭	（宮崎大学病院）
前原 東洋	（整形外科前原病院）
松元 征徳	（江南まつもと整形外科）
和田 正一	（整形外科前原病院）



第7回宮崎整形外科医学奨励賞 を受賞して

県立日南病院整形外科

大倉 俊之

この度は名誉ある第7回宮崎整形外科医学奨励賞を受賞させて頂き誠にありがとうございました。このような光栄な賞をいただけるという知らせを頂いた時には本当に感激しました。私が頂いた奨励賞のテーマは、大学院で行った研究「アドレノメデュリンの関節リウマチに対する治療効果」です。この研究は、御指導頂いた帖佐教授、濱田先生をはじめとする宮崎大学整形外科学教室の先生方、大学院在学中に勤務させて頂いた谷村病院の市原先生以下職員の方、関連病院・同門会の先生方、宮崎大学病理学及び内科学の先生方等本当に多くの方のお力添えがあってできたものであり、皆様に深く感謝申し上げます。

平成13年1月に整形外科教室に入局させて頂き、その後たくさんの先生方に御指導頂き今日までやっていくことができました。入局後、現在の診療中もそうですが、大学院での研究期間中にも「苦しいなあ」と思うことがありました。誰にでもそんな時に自分を奮い立たせるために思い出す言葉やエピソードがあるかと思います。新聞の記事で自分がよく思い出す記事があります。切り取ってあるのでそのまま書きます。

— 命を惜しむは何とぞ本意(ほい)を達せんと
思うゆえなり 石田三成 —

関ヶ原の戦いで徳川家康に敗れ、捕らわれの身となった石田三成に、家康の家臣・本田正純は、「腹も切らずに、おめおめと縄目にかかって恥とは思わぬのか」と嘲った。すると、石田三成は、「昔、源頼朝公は石橋山の戦いに敗れた後、木の洞に身を隠して助かった。もし腹を切っていたら、後の鎌倉幕府はなかっただろう。汝は全く武略を知らぬ男だ」と言い返したという。つまり、三成は、最後の最後まで打倒家康への執念を燃やし続けたのだった。処刑される前に、三成は京都の町を引き回されるのだが、その途中で喉が渴いたため、白湯(さゆ)を求めた。ところが、あいにく白湯はなく、そのかわりだと、警護の役人が干し柿を差し出したのだ。すると、三成は「干し柿は痰(たん)の毒だ」と言ってそれを食べなかった。そんな三成にその役人は、「これからすぐに首をはねられてしまう者が毒断ちをすることはないだろう」と大いに笑ったという。冒頭の言葉(命を惜しむは何とぞ本意を達せんと
思うゆえなり)は、その時の三成の返答だ。

どんなになっても、笑われても、馬鹿にされても諦めない石田三成の最後には勇気づけられます。今後、私は医師としてどこまで頑張れるか、どれだけのことを乗り越えられるかわかりません。今回いただいた賞を励み

にして、整形外科医として頑張っていきたい
と思います。今後とも宜しくお願い申し上げ
ます。





第7回宮崎整形外科医学奨励賞 を受賞して

小 牧 亘

この度は、栄えある宮崎整形外科奨励賞を受賞させていただき誠にありがとうございます。今回の受賞テーマは、悪性腫瘍の浸潤・転移機構の解析-上皮細胞におけるHGF activator inhibitor type 1 (HAI-1) の発現調節に関する研究-ですが、大勢の方々の支えにより同賞をいただくことになりました。

私は、子供のころ、学者になりたいという夢がありました。友人たちと元気に遊ぶことも好きでしたが、夢想したり、本を読んだり、物を作ることが好きだったこともあり、周囲の人の中でイニシアチブをとり、何かを成し遂げるよりは、一人でフラスコを振っているイメージが合っていると思い込んでいました。父が若いころ、リサーチをしていたこともあって、リサーチをしてみたいと思っていました。

整形外科では、関節リウマチを始めとした難治性疾患で苦しんでいる患者さんに直面します。中でも、骨肉腫に代表される骨軟部悪性腫瘍は、疾患によっては5生率が良くなってきているとは言え、いまだ制圧しきれれておりません。入局1年目にPost-radiation osteosarcomaの患者さんの主治医を経験しました。化学療法を数クール施行したのですが、強い副作用に苦しむ姿を目の当たりにしました。なんとか救ってあげたいと思って

ました。医学に対し学生なりに多感だった学生の頃から「こんなに医学が進歩しても癌の制圧はできないのか」と思っていました。整形外科の研修医となり、初めて学会発表し論文にしたものは、「長管骨転移性骨腫瘍に対する骨接合術(セメント併用)の経験」で腫瘍に関するものでした。当時の田島直也教授(現 名誉教授)に大学院に進学したい希望を伝えたところ、「ウチには腫瘍をやるDr.がいないから、病理で勉強してきて」と言われました。とりあえず、大学院は基礎医学で学ぶことで話がついており、解剖あたりで勉強するつもりで願書には解剖学教室希望としておりましたが、病理学教室に書き直しました。

「Research mindはありますか？」そんな言葉で迎えていただいたのが、病理学第2講座(現 病理学講座腫瘍・再生病態学分野)(以下、2病理)の片岡寛章教授でした。2病理は、常に10名前後の院生が属しており、大多数が病理診断で関わる外科系出身者で構成されており、活気がありました。初代の河野正教授の指導により、お弟子さんが他大学も含め4名も教授になられている優秀な教室でした。当然、自分としては整形領域の研究をするつもりでした。与えられた研究テーマは、「傷害組織における膜型 HGF activator

inhibitor type 1 (以下、HAI-1) の発現亢進機序について検証する」ことでした。HAI-1が上皮癌に発現することを知り、軽いショックを受けました。整形外科の悪性腫瘍は肉腫すなわち非上皮であるため、整形領域に関わった研究には縁遠かったからです。骨軟部腫瘍をテーマとして基礎研究したいと思っていたため、がっかりしました。片岡教授としては、最初に与えたテーマをクリアー後に新たに整形外科領域に関わるテーマを与えるつもりだったようです。最初のテーマでリサーチスキルを習得させるのが狙いだったようですが、なかなか前に進みませんでした。なじみのない分子生物学領域の遺伝子・蛋白等の名称、癌や組織傷害時の分子機序…。本を買ってきては読むのですが、難解でちんぷんかんぷんでした。最初に「うち(2病理)では日本語の文献は読まない、読むのは英語の文献だけだ、我々が発信していく相手は日本ではなく世界だ」と片岡教授に言われました。日本語で書いてあるものを読んでもわからないのに英語で書いてあるものを読んでも…。英文抄読会は苦勞しました。2-3年前の文献をプレゼンしようものなら白い目で見られるため、当然、最新の文献を用意しなくてはなりません。Figureが3つくらいの短いものも暗黙の了解のもとアウトなため、Figureが6-10あって比較的インパクトファクターが高い文献をチョイスしなくてはいけませんでした。わからない単語、したことのない実験手技…。1文献につき、関連文献が30-40編はあるため、文献を読み漁りました。著者が所属する研究室に関することなどを調べているうちに、1抄読会あたり60-100編は文献を読んでいたと思います。文献の流れに沿ってテーマに関わる仮説→実験→結果→考察

と今後の展望となるスライドを作成しますが、その仮説を立てた経緯から系統立ててプレゼンしなくてはなりません。チョイスした文献のセンスが悪い、実験手技を理解していない等、厳しく査定されるため、毎回しんどい思いをしました。原稿を読むのもアウトで、新たに証明された事象を相手に伝わるように生き生きとプレゼンするように指導されました。現在、私が学会報告の際、原稿なしでプレゼンできるのは、指導の賜物です。大学院生を中心に輪番制に回ってくるのですが、出身医局の地方会の方がよっぽど楽だと思っていた。最近では、整形外科の国際学会で報告しても、2病理の抄読会の方が大変だったなあって思います。研究経過発表も同様に回ってくるのですが、抄読会同様地獄でした。当時の研究経過発表スライドを見ると、いかに自分のレベルが低くわかっていなかったか認識させられると同時に、片岡教授が忍耐強く指導して下さったことに対し頭が下がる思いです。

そんな教室の中で、研究以外に整形外科領域の病理診断、臨床医としての仕事(バイト先での外来・執刀・病棟・当直)、整形外科病理組織整理係、病理所見取り込み(整形外科の主に後輩の学会報告用)、骨軟部腫瘍学会の症例診断(同学会より郵送されてきた各大学で診断に難渋した症例を診断した結果を同学会に返事する)等を担っていました。その間、肝心の研究においては、2006年の日本癌学会、2008年の日本病理学会で研究の成果を報告しました。

以下は、片岡教授が宮崎県医師会医学会誌に寄稿した総説から抜粋したものですが、「癌細胞の浸潤・転移現象は癌の悪性形質の代表的なものであり、その機構の解明と制御

は医学にとって重要な課題のひとつである。この分子機構はきわめて複雑なもので、現在では、多くの固形癌においては、癌細胞と間質の宿主細胞や細胞外基質との相互刺激・相互作用こそが、浸潤・転移現象において重要なのではないかと考えられるようになってきている。事実、これまでに浸潤と転移に必要とされた様々な機能分子には、その活性の発現調節においてこれらの相互刺激・相互作用が極めて重要な役割を持つものが多い。このことは、固形癌の浸潤・転移の抑制を念頭においた治療を考える際には、癌細胞そのものだけでなく、癌の間質も標的とすることが可能であることを示している。」この総説では、癌細胞の浸潤・転移における癌細胞と間質細胞の相互作用の意義について概説し、この相互刺激に関わる機能分子の例として、特に、EMMPRIN (extracellular matrix metalloproteinase inducer) と、肝細胞増殖因子/散乱因子 (hepatocyte growth factor/scatter factor: HGF/SF) およびその活性化調節機構について紹介されています。我々臨床医にも認知されているHGFは癌細胞の浸潤・転移に関与するscatter factor (拡散因子) として注目されており、c-MET蛋白の過剰発現は肝細胞癌、消化管・甲状腺・腎などの腫瘍で認められ予後不良因子と考えられています。c-met 遺伝子はヒト骨肉腫細胞から同定され、同遺伝子のコードする蛋白はHepatocyte growth factor(HGF)のレセプターであり、私としては、c-MET、骨肉腫をキーワードに研究をしたい思いもありましたが、叶いませんでした。研究テーマのHAI-1はHGF/SF-MET シグナル系における主に上皮細胞膜上に発現するプロテアーゼインヒビターで、細胞膜上で種々のセリンプロテ

アーゼ活性の調節に関わるとされています。細胞膜HAI-1蛋白発現が傷害組織の上皮や間質浸潤癌細胞などで亢進することを2病理でも報告していました。これらの“傷害組織”における膜型HAI-1発現亢進機序については不明であったため検討することになりました。

方法に関しては以下の実験手法を用いました。①膜型HAI-1蛋白の発現は、抗HAI-1抗体を用いた免疫組織染色とimmunoblot法を用いて、またHAI-1 mRNA発現レベルはRT-PCR法およびTaqManプローブを用いたreal-time RT-PCR法で検討しました。②HAI-1遺伝子プロモーター領域はdual-luciferase reporter assayにより、培養細胞(HLC-1ヒト肺癌細胞、WiDrヒト大腸癌細胞、HeLaヒト子宮癌細胞)を用いて検討しました。培養細胞の酸化ストレスは過酸化水素添加により、低酸素刺激は低酸素下(1%O₂)培養およびCoCl₂添加によって行いました。③組織における酸化ストレスと低酸素状態については、それぞれ4-hydroxy-2-nonenal (4-HNE)およびhypoxia inducible factor-1 α (HIF-1 α)に対する抗体を用いた免疫染色によって評価しました。

以下の結果が得られました。①胃腸管の潰瘍性病変や消化器・肺の癌組織を用いたHAI-1免疫染色より、HAI-1が傷害組織や壊死部に面した上皮細胞で強発現することが確認でき、これらの発現パターンから、低酸素ないしは酸化ストレス刺激によってHAI-1発現が亢進する可能性が示唆されました。そこで、②培養細胞を用いて検討したところ、低酸素および酸化ストレス刺激によりHAI-1 mRNAと蛋白質の発現が亢進することが示されました。③プロモーター領域の解析では、転写開始点の上流58-42bpに存在する

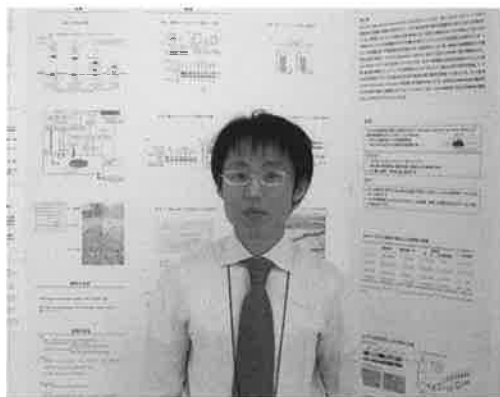
Egr1 - 3およびSp1結合配列部がHAI-1転写において重要であることが示されました。更に、④この領域の塩基配列に変異を導入すると、低酸素および酸化ストレス刺激下におけるプロモーター活性亢進が強く抑制されました。⑤肺癌組織を用いた免疫組織学的検討では、低酸素マーカーであるHIF-1 α および酸化ストレスマーカーである4-HNEが陽性となる領域で、HAI-1の発現が亢進する傾向が認められました。

結論として、以下のことが言えました。①HAI-1の発現は、低酸素下や酸化ストレス下に置かれた上皮細胞において亢進しました。②細胞膜上のHAI-1には、傷害上皮細胞の生存に重要ななんらかの意義を有する可能性が示唆されました。

以上をまとめ、Virchows Archiveと言う雑誌に論文が掲載された時、片岡教授の学位論文と同じ雑誌であったこともあり、厳しかった片岡教授も喜ばれました。

研究によって、以下のメリットが得られました。①英語の文献を読む習慣が身につきました(最近では、読む暇がないのが悩みの種です)。②物事を考える能力を養いました。何かが起こった時、新たに何かを始める時など熟考でき、仕事で役立つ能力を得たと思います。③脳(想像力)には限界がないと再認識できました。最初からできないと決めつけないで、これって可能なのではという発想が芽生えるようになりました。④他科の知り合いができました。現在でも1年に1回は、2病理に関わった仲間と酒を酌み交わして情報交換をしています。⑤発表、論文作成のデザインを含めスキルが得られました。⑥Researcherと臨床医の両者の気持ちが少しは理解できるようになりました。

昨年10月に亡くなった父の後を継いで、医療法人社団牧会で臨床医として従事していますが、Research mindを胸に日々邁進しております。現在では、大学院当時のような実験はできませんが、当時習得したデータ解析やスライド作成・プレゼンスキルを駆使して、忙しい臨床の合間に学会報告等を行っております。整形外科領域の病理診断も学んだため、最近、整形外科医としては珍しく顕微鏡も購入し患者さんへの説明に利用することにしました。



研究が思うようにいかず、「大学院辞めるよ」と言った私に対し、父は翌早朝、母を引き連れて、「学位は取れなくてもいい。4年間通えばいい。辞めなさんなよ」と諭しました。普段なら頭ごなしに、「辞めるな」の一言で済まされていたのですが、この時だけは、生涯においても珍しく父から一喝されず、むしろ4年間通えば良いのだと楽な気持ちになり通うことにしました。続けているうちに徐々に結果が得られ、論文としてまとめることができました。続けることの大切さを今更ながら実感しました。父がきっかけで、少しだけですがリサーチに携わることができました。学位が得られた時、私を幼少時からほとんど褒め

てくれなかった父が「お祝いをしないと
なあ」と喜んでくれました。今回の奨励賞は、
父が生きている間に最も見て欲しかったの
ですが、天国で会った時にもう1回だけ褒め
てもらえるように、父が築いたものをしっか
り継承し、良い人生を歩んでいく所存です。

家族、田島名誉教授・帖佐教授・当時の医局
長(渡邊先生・関本先生)を始めとした整形外
科教室、片岡教授の忍耐強い御指導および病
理学 教室に対する感謝の気持ちを忘れるこ
となく、微力ながら、医学の世界に貢献でき
るように努力を惜しまないつもりです。





西日本整形外科野球大会を 終えて2012 -1軍-

石田 康行

今大会で一軍キャプテン3年目となりました。今回は佐賀大学の主幹で佐賀市での開催でした。抽選会では、3試合で優勝できる試合数が少ない組み合わせを引くことができたのですが全試合球場移動でした。年齢が重なってくると夏の試合ごとの移動は冷房にあたれ、ある意味うれしいというプラス思考で試合に臨みました。

2回戦の試合は九州大学でした。伝統がある、臨床研修制度での新入医局員減少の影響を受けにくい、いつも若手が多いチームです。去年は私たちより若く動きがよかった選手が一塁ベースコーチに立っているのを見て、層の厚さを実感しました。先発長澤先生の好投もあり、4-2で勝利しました。

準決勝は福岡大学です。好投手がいるのですが、毎年のように我々とあたって日整会に出場できていないチームです。投手戦が予想され、2回のツーランスクイズを含めたスモールベースボールと先発松岡先生の完封で6-0で勝ちました。

決勝は熊本大学でした。近年、サイドスローの西医体優勝投手がいる優勝候補のチームです。その投手は連投しており、先発はほかの投手でした。先発矢野先生の好投

で、最終回の5回表まで4-2で優勝かと思われました。しかし、野球の神様は許してくれず、5回裏、1点取られ4-3の1点差となり、さらに2アウト満塁となり一打逆転サヨナラ負けの場面になりました。センター前ヒットを打たれ、同点、逆転のランナーがセカンドからホームをつきました。センター小藪から、ショート三橋、キャッチャー福岡へのバックホーム、タッチアウトで試合は終了しました。4-4の同点でジャンケンによる勝敗となりました。5-1でジャンケン勝利し優勝となりました。

運がいいというか、勝ち癖があるというか、とりあえず、よかったです。

高齢化が進み、体力の衰えが感じられる反面、試合経験が豊富になり、試合の流れを考えたプレーや声かけができるチームになっています。試合に出た選手、ベンチでチームのために声かけしてくれた選手みんなで勝ち獲った優勝でした。野球ができる喜びを感じながら、全国大会でも2連覇めざして、チーム一丸となって頑張っていきたいです。いつも、同門の先生方の御支援、御協力ありがとうございます。



西日本整形外科親善野球大会 を振り返って -2軍-

船元 太郎

平成24年西日本整形外科親善野球大会でキャプテンを務めさせていただきました。そこで2軍戦を振り返ってみたいと思います。

まず大会前日の抽選ですが、今大会では大分大学が2軍を組めないとのことで、全1回戦3試合のうち1試合がなくなり、例年より楽な可能性がありました。しかしその幸運を生かすことができず朝1番からの1回戦に臨むこととなりました。2軍戦のくじで問題なのは対戦相手よりも試合開始時間、試合数、グラウンドが重要なのは皆さんご存知の通りです。

決められた試合会場に到着すると、朝7:30にも関わらずそこは容赦のない日差しと、草1本生えていないだけ広いグラウンドでした。体力があるものだけが生き残れる弱肉強食の世界、それを肌で感じさせるものがありました。そして、その環境は時間とともに少しずつ、でも確実に我々の戦力を蝕んでいきました。

1回戦は久留米大学が相手です。序盤から攻勢をかけ率先よく先取点を挙げると、その後も打線がつながり一気に突き放しました。柳園先生のピッチングも絶好調でストレ-

ートの伸び、カーブのキレに相手打線は太刀打ちできず結果17-2での勝利でした。2回戦は産業医科大学が相手です。この試合も打線爆発、16-4で勝利しました。

続いて準決勝です。対戦相手は1軍同様2軍も強豪の琉球大学です。序盤お互いに点を取り合い、最終回を1点リードして迎えました。あとアウト3つで決勝戦です。勝利も見え始めた矢先、朝から連戦の影響か、エラーや四球などが絡み逆転負けを喫してしまいました。スコアは7-8でした。

2軍は大分大学主幹の平成21年以来、優勝から遠ざかっています。負ける時のパターンも一緒に、守備でのエラーや四球で自ら自滅している印象があります。その背景には準決勝、決勝まで3試合、4試合と連戦となるため、やはり体力の限界が訪れプレーに顕れてくるのだとパターン分析しています。体力温存も考慮したチームマネジメントが必要ですが、キャプテンの能力不足で適切な対処ができなかったと反省しております。

最後に大会への参加をご支援いただいている同門の先生方にこの場を借りて御礼申し上げます。



日整会野球大会を振り返って

石田 康行

今回は全国大会の出場権は得ていたのですが、東日本大震災の影響で日整会自体が中止となり、野球大会も中止となりました。今回、2年ぶりの全国大会で京都府立大学主幹での開催でした。前日のキャプテン会議での抽選会で最優勝候補の金沢大学と初戦で対戦することとなりました。会場のざわめきが起こったのを思い出します。

今回はレギュラー捕手の福島秀一郎先生が参加できず不安な状況での大会でした。初戦は事実上の決勝戦、金沢大学でした。長年、対戦している強豪で胸を借りる気持ちで臨みました。相手投手は北陸独立リーグ出身の若い投手との評判でした。長年、やっているとは下馬評の高い投手によく、遭遇するもので厳しい試合になるでしょうが自分たちの野球をすることを心がけました。我々の長澤先生の好投で4-1で勝利しました。2回戦は名古屋大学でした。序盤は我々のペースで大きくリードしていましたが終盤追い込みにあい、

7-5で勝利しました。全員野球での勝利でした。

準決勝は東京大学でした。松岡先生の先発で接戦の末2-1で勝利しました。

決勝の舞台はわかさスタジアム、旧西京極野球場で右中間後方に電車がみえる球場でした。相手は奈良医大で、前々回の東京大会で準決勝で負けたチームです。近年、優勝常連校で何とか伸びた鼻をへし折りたいたいと思いました。長澤先生の好投もありましたが、相手の投手もよく、0-0で両校優勝となりました。

この年になりこんな緊迫した野球ができる喜びを実感しました。試合に出た選手、ベンチでチームのために声かけしてくれた選手みんなで勝ち獲った優勝でした。野球ができる喜びを感じながら、今後ともチーム一丸となって頑張っていきたいです。

いつも、同門の先生方の御支援、御協力ありがとうございます。



日本整形外科学術集会親善 サッカー大会

森 治 樹

H24年度の日本整形外科学術集会親善サッカー大会は京都で行われました。サッカー大会も野球大会と同様に恒例となってきました。当医局サッカー部もほとんどの大会に参加しています。1回戦は群馬大学でした。群馬大学の实力は分かりませんでした。関東代表はいずれのチームもレベルが高いので強そうなイメージがありました。アップ中にスタメンの野中先生が肉離れ?を起し、急遽メンバー変更を行わざるを得なくなりました。さらにいつも失点が多いので、守りから入ろうと消極的になってしまったこと、予想通り群馬大学が強かったことなどから、開始数分で失点してしまいました。その

上、意気消沈したところにすぐ失点、当然のように雰囲気が悪くなってしまいました。結局、後半に2点取られ、終了間際に1点返しましたが焼け石に水、4対1で負けてしまいました。毎年のように参加させて頂いているのですが、1回戦を突破したのが1回しかなく、野球のようになかなか勝てないのが現状です。しかしながら大好きなサッカーができること、またサッカーを通して医局員とコミュニケーションをはかれることが何より大切なことと思います。最後に日本整形外科学術集会親善サッカー大会への派遣を快く、送り出してくださった関連病院の先生方へお礼を申し上げます。



平成24年度同門会ゴルフ大会 について

三股病院

森 田 信 二

平成24年度の同門会ゴルフ大会はH22.12.5に平川先生、川越先生、川野先生、柳園先生幹事のもと宮崎カントリーゴルフクラブで行われました。帖佐教授は残念ながら参加されませんでした。渡辺先生、市原先生をはじめ遠方からも多数参加され、晴天ながら極寒、強風の中みなさんそれぞれ苦勞しながらもゴルフを楽しんでおられました。条件の悪い中ベスグロの弓削先生をはじめ渡辺先生、池ノ上先生は好スコアで回られており、実力の片鱗が窺われました。逆に強い風と上からは止まらない高速グリーンに悩まされてうちひしがれて帰路に就いた先生も数名いました。個人的にはグロスが90で多少不満の残るスコアながらも隠しホールが見事にはまって優勝させていただきました。同伴の平川先生、長田先生、小島先生がいい雰囲気を作っ

ていただき、気持ちよく回れました。誠にありがとうございました。

優勝候補でドラコン、ニヤピンの常連の益山先生が体調を崩し、出場できなかったことは残念でしたが17名もの参加があり、今後も引き続きこのコンペが盛り上がり開催されることを希望します。ところで2年前のこの同門会誌報告しましたがショットイップスの川P先生はスウィング改造が徐々に実り一歩ずつ前に進んでいます。河川敷の帝王柳P先生は練習場の実力がなかなか発揮できませんでしたが開花までもうちょっとというところです。

それでは今年の同門会ゴルフ大会も楽しみにしていますのでよろしく願いいたします。





第15回 同門会テニス大会

のぞきクリニック 整形外科
弓削 孝雄

例年通り、11月23日、勤労感謝の日にシーガイア近くのエントランステニスコートで行われました。

天候は曇り、時々小雨でコートが少し湿っていましたが、ゲームにはあまり支障はありませんでした。

AM9時～13時まで十分にテニスを楽しみました。メンバーは川野啓一郎先生、福田健二先生、松本英裕先生、神菌豊先生、尾田朋樹先生、谷島満先生、弓削孝雄、それにひとり、オープン参加をいれて、8人で4ゲーム制でポイントの合計で競い、時間が十分ありましたので、一人、8試合しました。



7試合、終了の時点で、神菌Drがポイントでトップで私がIポイント差でII位につけていました。最後の8試合目で尾田、弓削組対神菌、谷島組の対戦となり、3-1で勝ちまして、結果、私が逆転優勝となりました。

近くのリモコン車で昼食と表彰式を行い、優勝賞品がバギー(リモコンの車)で私の3人の孫は皆女の子で困っていましたが、正月に帰ってきて、結構遊び道具になっていたようです。

私も今年(H25)で70歳になり、古希を迎えますが、体力と気力はまだ少し残っているので、登山、ジョギング、テニス、etc. そして仕事にもう少しは頑張ってみるつもりです。

今後ともよろしくお願いたします。





マージャン大会のご報告

松山 順太郎

この度、新たに同門会へ入会させていただいた松山順太郎です。

今回ご挨拶かねて麻雀大会に参加させていただいたのですが、非礼にも優勝してしまったため一筆執らせていただきました。ただ言い訳をさせていただくと、大会では初対面の先生方も多く失礼があってはよくないと、なるべく聴牌したら立直をかけ、つまらない手を作らないようきれいな手を心掛けていたらその日に限って運がよく申し訳なく勝ってしまった次第であります。もちろん、麻雀は強くはないのですが大好きで中学生の時からやっており、大学生の時は大学の

寮にいたこともあり徹夜でやることも多かったと記憶しています。それ以外に全自動卓を自宅用に買ってみたり、中国に行って象の骨の麻雀牌やらを買ってきたり自分でも相当好きであることを自覚しております。ただ、最近は卓を囲むこともほとんどなくなり寂しい限りでしたので今回参加させていただきとても楽しませていただきました。今後、卓を囲む機会がありましたら是非お声をかけていただければと存じます。今回は、まことに失礼いたしました。今後ともよろしくお願いいたします。



第8回帖佐杯

池尻 洋史

2012年4月15日(日)UMKカントリークラブにて第8回帖佐杯が開催されました。天候は曇り、最高気温は19度、3m程度の風でまさにゴルフにとっては最適な条件でした。参加者は例年20名を超えるのですが今回は14名とちょっと少ないさみしい大会でした。前回大会優秀者である江夏先生による始球式にて幕が落とされました。私は幹事でもありましたので4組目の最後で藤浦師長・長澤先生といっしょに気のおけないメンバーでラウンドいたしました。最近はゴルフのラウンド回数がめっきり減り不安な状態での参加でした。しかしホームグラウンドのレイクサイドG.Cと違い、比較的OBの少ないUMK G.CのおかげでOBすることなく徐々に調子を上

げることができ、結果としてGross 80で70台には一歩及ばなかったものの私のベストスコアでラウンドし、優勝することができました。整形外科教室での3大ゴルフ大会に優勝することがほとんどなく嬉しさのあまり、優勝トロフィーを1年間玄関に飾りました。先日第9回大会が開催された際にトロフィーを持っていくときに少しさみしい気持ちになりました。またトロフィーのある大会で優勝できればと思いました。

来年は第10回の記念大会となりますので、全員優勝機会のあるダブルペリアでの開催を考えておりますので多くの参加をお待ちしております。





野球検診報告

石田 康行
帖佐 悦男
長澤 誠

宮崎県はプロ野球キャンプ地でもあり、野球人気は高く、少年野球、ソフトボールを行っている選手も多いです。1995年日本臨床スポーツ学会は青少年の野球障害予防のために、投手、捕手は2名以上育成する、小学生の練習時間は週3日以内、1日2時間超えない、全力投球は1日50球以内、週200球超えないといった提言をしましたが、現在でも肩肘の障害のため野球ができなくなったり、日常生活に支障をきたす青少年が存在するのが事実であります。そういう青少年をなくそうと帖佐教授は全国規模で”子供に笑顔野球傷害を防ごう”プロジェクトを立ち上げ、統一した野球検診の普及に努められました。その一環として宮崎でも2010,11,12年と少年野球検診を行ってきました。その報告をさせていただきます。

宮崎県軟式野球連盟に趣旨を説明し、連盟所属チームの選手、指導者にアンケート調査を行いました。一次検診はチームに検診希望者を申請してもらい、オフシーズンの12月の指定日に当院へ来院してもらう形式で行いました。2010年218名、2011年330名、2012年445名の検診を行いました。診察、エコーで2次検診該当者が生じた場合は引率者、保護者に同意を得た後、即日二次検診を行いました。同意が得られなかった場合は近医への紹

介状を作成しました。二次検診即日受診率は2010年83.4%、2011年97.2%、2012年94.4%でした。我々の検診は、従来の試合会場で行う検診と異なり、できる限りその日に二次検診を行うので二次検診率が高いのが特徴です。検診結果は3年とも不思議なもので二次検診受診者が一次検診受診者の約20%で、二次検診受診者の異常部位は90%が肘関節でした。その肘関節異常者の80%は内側障害で20%は外側障害(小頭離断性骨軟骨炎)でした。検診で見つかった小頭離断性骨軟骨炎の90%は初期でした。少年野球障害で野球ができなくなったり、日常生活に支障をきたすのは小頭離断性骨軟骨炎の、進行期、終末期例であることから、検診は早期発見、早期治療に有用でした。

反省から今後の課題も見つかりました。1つは野球障害の病態、予防に対する啓発、教育です。検診を行っても障害が減り、予防が各チームで行われなければ自己満足にすぎません。検診後、検診報告会を行いました。参加者が少なく、十分に選手、保護者、指導者にフィードバックできているか疑問です。機会を作り、野球障害の病態、予防に対する啓発、活動に力を入れていきたいと考えています。2つ目は、検診の体制作りです。これまでは宮崎大学に高千穂、延岡、えびの、串間など

遠方から来院してもらい、検診していました。県北、県西、県央、県南各地区で、検診ができる体制づくりができればと考えてます。3つ目は検診に協力してもらおうスタッフの確保です。これまで医局員、理学療法士、看護師、事務等有志でおこなってきました。各地区で行うとなれば多くのスタッフが必要で

す。協力していただける方は是非、宮崎大学整形外科にご連絡いただければ幸いです。

同門の先生方には遠方の選手のfollow up など、お願いすることがあるかと思いますがよろしく願いいたします。今後も御理解、御協力の程、宜しく願いいたします。





「第8回学生のためのスポーツ医学 セミナー」開催報告

宮崎大学医学部整形外科

田島 卓也

2012年8月26日(日)に日本臨床スポーツ医学会主催で「第8回学生のためのスポーツ医学セミナー」を開催いたしましたのでご報告いたします。今回のセミナーは対象としてスポーツ医学に興味を持つ中高生、大学生、医学部生、看護学生、理学療法士をはじめとする医療系専門学生とし、JA・AZMホールにて開催されました。実に377名もの幅広いカテゴリーの聴衆に来ていただくことができました。

今回のセミナーの全体的なテーマを「スポーツ選手に対する総合的なメディカルサポート」とし、様々な職種の講師に講演していただきました。第1部では「スポーツ外傷からの復帰:いつになったら復帰できるの?」のテーマのもと、宮崎大学医学部4年生有志5名が体育会系サークルに所属する選手たちへのアンケートをもとに、実際の現場ではどのような判断で復帰しているかを発表してもらい、活発な討論がなされました。ついで宮崎大学整形外科の河原勝博先生にスポーツ医学の見地からみた復帰の基準について解説していただきました。第2部では「スポーツドクターのカタチ:各々の関わり方」のテーマのもと、

・病院勤務での立場から:井上篤先生(野崎東病院)

・マッチドクターの立場から:吉川大輔先生(藤元早鈴病院)

・チーム帯同ドクターの立場から:小島岳史先生(橘病院、U-20サッカー日本代表)

・チームドクターの立場から:黒木修司先生(宮崎大学病院、旭化成柔道部)

・キャンプ地でのリエゾンドクター:樋口潤一先生(獅子目整形外科病院)

の5名の先生方に各々の立場でのサポートの仕方について講演していただきました。学生

たちも興味津津で聞き入り、どうしたらスポーツドクターになれるのかなど活発な討論がされていました。第3部では「コメディカルのメディカルサポート」のテーマのもと、

・チーム帯同トレーナーの立場から:大迫亜矢先生(藤元早鈴病院理学療法士)

・リハビリ室から現場まで:宮崎茂明先生(宮崎大学病院理学療法士)

・健康スポーツナース:久米田知美先生(宮崎大学病院看護師)

・プロチームのサポート:渡辺浩二先生(bjリーグ宮崎シャイニングサンズ ストレングス&コンディショニングコーチ)

の4名の講師に各々の立場・職種の違いによる関わり方を講演していただきました。最後に宮崎市出身でシドニー五輪柔道金メダリストである井上康生氏に「怪我との戦い」と

いう演題で特別講演をしていただきました。
ご自身も大胸筋断裂など度重なる怪我を経験され、色々な苦労があったようですが、不屈の闘志と周囲のメディカルサポートもあり、数多くの大会で優勝されたことを熱く語っていただきました。

今回は医師だけでなく様々な立場・職種の講師陣、聴衆に参加いただき、盛況のうちに閉会することができました。





医局旅行

大塚 記 史

2013年1月26・27日に行いました医局旅行について報告いたします。

出発当日は天候にも恵まれ、高速バスにて大学病院を出発いたしました。

途中、薩摩ビール園に立ち寄り、海外の生ビールなどを楽しみながら、指宿ロイヤルホテルに到着いたしました。送迎バスにて移動後、砂蒸し会館砂楽の珍しい砂風呂で疲れを取り、ホテルに帰った後は温泉・夕食を楽し

ませていただきました。

温泉は露天風呂で錦江湾を眺めながら、ゆっくりできる素晴らしいものでした。

翌日は、かるかん工場見学後、鹿児島市内にて昼食をとって帰路につきました。

2012年4月より救急部が発足し、皆忙しい日々を過ごしている中で、ゆっくりと身体を休めることのできる旅行になりました。





開業しました

ほんぶ整形外科
本部 浩一

H23年10月3日平和台大橋西側の小松地区にクリニックを開業いたしました。

教室在籍中は帖佐教授はじめ同門の先生方に大変お世話になり、ありがとうございました。ただでさえ人手不足の中、教室から離れるのは心苦しい気持ちでしたが年齢的なことや家庭のことなども含め決断しました。

当初、両親の勧めもあって祖父母ゆかりの西都での開業を考えておりました。土地の準備もすすめていたのですが、突如健診で血糖異常がわかり将来の通勤の負担を考えて市内で場所を探すことになりました。コンサルタントや不動産屋からいろいろなデータを見せてもらいながら数多くの物件を検討していきましたが、結局はデータよりも第一印象でピンときた今の場所に落ち着きました。何とか決まった場所は幹線道路に面してはいるものの裏手には広々としたのどかな田園が広がりなかなかの居心地で、長く続けるには良いところだと思っています。

場所が決まった後は、木花の渡部コンサルタント、阿波岐原の後藤コンサルタントにまさにおんぶにだっこでしたので準備自体は非常にスムーズでした。ただし不動産関係の契約には自分の不勉強のため高い授業料を支払う羽目になりました。

開業後やっと1年半が経過し、多少仕事に

慣れてはきましたが、いまだに急なトラブルに右往左往したり、患者の数で一喜一憂しております。

開業して感じたことは、中核病院を離れ個人で診療していると、患者さんの信用を得るのが大変だということです。大して腕のない私が、大きな病院の看板なしで診療するのはやはり大変でした。毎日が面接試験のような気持ちで診療に臨んでいる次第です。それから昔のように愚痴を言い合える同僚が近くにいないのは寂しい限りで、医局でわいわい言いながら仕事していたことが懐かしく感じられます。

どうかこうにか、細く長く続けて、少しでも地域医療に貢献したい所存ですので、ご指導ご鞭撻のほどよろしくお祈いします。





新規開業

この整形外科 河野 立

常日頃より、同門の先生方には大変お世話になっております。

平成23年10月17日、西都市で「この整形外科」を開業させて頂きました、平成9年入局の河野です。

これまでは大学→静岡県焼津市の甲賀病院→埼玉医大麻酔科→東邦大学形成外科→宮崎市郡医師会病院→高千穂町国民健康保険病院→大学→東京手の外科・スポーツ医学研究所 高月整形外科→大学→県立延岡病院→善仁会病院と勤務してきました。

入局してすぐ脊椎グループに配属され、整形外科に入局したことを後悔しました(その理由はあえてここでは書きませんが)。

次に上肢グループに配属となり、その頃に将来は手の外科・マイクロサージェリーをやりたいと決めました。(それからはマイクロ鑷子とマイクロ持針器を購入して、顕微鏡下の縫合の練習を開始しました)。

大学を出てからは設備の問題などでしばらくマイクロのトレーニングは出来ませんでした。

形成外科での半年間は貴重な時間でした。

そうこうしているうちに、マイクロしていた先生方が皆開業され、教えを乞う先生がいなくなってしまうので、再度どこかに

修行に行くことを考えました。

多数の先生方に無理をお願いし4ヶ月だけ高月整形外科に研修に行かせて頂きました。

そこで得た技術を一番生かされたのは、県立延岡病院にいた3年8ヶ月だと思います。転勤して二日目に母指の引き抜き外傷が来て、vein graftして何とか血行再建出来ました。

県延在職中は、全国ニュースレベルの事件が色々と延岡で起こっていました。竜巻事故があった日は、病院当直だったのですが、そこで初めてトリアージを経験しました。

本当にいろんな手術、事件、問題がありましたが、一番の思い出と言えば糸乃先生と最長19時間の手術をしたことでしょうか。

その後は善仁会病院で黒田親分のもと、整形外科15年目にして初TKA,THA,TEAを経験することが出来ました。いっぱい怒ることもありました。日吉君とかなりマニアックな手術もしました。

しかし結婚し家族も増え、40歳を目前にして、いつまで転勤族でいるのだろうか、いつまで手術が出来るのだろうかとか色々と思ひ悩み(全部書くと問題になりそうなので割愛)開業を決意しました。

今まで培ってきた技術を放棄してしまうのは、これを与えてくれた先生方に大変申し訳ないと思いましたが。

開業を決めてからは、色々な人が近づいてきました。ちょっと人間不信に陥ることもありました。

幸い私には強力なサポーターがついていてくれましたので、何とか乗り切ることが出来ました。

勤務しながらの準備はなかなか大変でしたが、何とか開業にこぎつく事が出来ました。

西都に開業したのは、通勤圏内であること、しがらみが少なそうだったことなどが理由です。

開業前に東九州自動車道の無料化が終了したのは残念でしたが。

開業してからは人を雇うことの難しさを実感しております。人間関係は本当に難しいですね。

医局に色々文句を言ってきた自分を少し反省しております。

西都市は農業をしている方がほとんどで

すので、雨が降れば患者さんが増え、種まきや収穫期は少なくなるようです。

患者さんが少なければ不安になり、多ければ愚痴をいいながら仕事をしています。

毎日が同じリズムで、時の流れをずいぶん早く感じるようになりました。

椅子に座っている事がほとんどで、体重が90キロ目前となってしまいましたので、昨年夏からプチ糖質制限生活を始めました。糖質フリーの発泡酒がお米の代わりになって何とか80キロになりましたけど、さすがにこれ以上は運動が必要のようです。

開業してあっという間に一年半が過ぎました。

まだまだ知らない、分からない事だらけですが、試行錯誤の毎日です。

同門の先生には患者さんの紹介、御相談などで大変御迷惑をおかけいたします(特に黒田先生、糸乃先生)が、今後とも御指導御鞭撻のほど何卒よろしくお願い申し上げます。



健康の近代日本史と新規開業

江南まつもと整形外科
松元 征徳

「健康」に対するWHOの有名な定義は「健康とは身体的精神的社会的に良好な状態であり、それは単に疾病がない虚弱でない、というだけではない」です。わからん定義？

せっかく原稿の依頼がきたので、わからん定義、健康の近代日本史を徒然なるままにまとめてみました。

明治時代、富国強兵のために「健康」を推進しました。国にとっての「健康」は「個人の健康」ではなくて「社会が求める健康」になったのです。その後、健康を脅かす病気は外敵である感染症から「自分の内側に発生する多元的なもの」になりました。

国民の意識も変化します。1961年国民健康保険法が完全実施され、皆保険が始まり、人々は病院を手軽に使うことができるようになりました。それまで日本人は生活の知恵として様々な医療を家庭生活の中で実践していましたが、医療の専門家へ依存するようになったのです。

目標が不明確で対策が困難でも国は「健康」を増進し続けます。まずは「早期発見・早期治療」の施策が次々施行されました。1970年代には「健康づくり」が推進されます。さらに厚生白書では、1986年に「自覚と責任」、88年には「健康づくりと生きがいづくり」が謳われ、1996年には「成人病」が「生活習慣病」に

改められ、「国民生活への干渉」が順調に強化されていきました。そして2003年の「健康増進法」で、「健康の増進」は国民の法律上の責務となりました。国民は正体が明記されない「健康」を目標として追い求め続けなければならないのです。

現代日本では、人は医学に「健康増進」の機能を求めます。しかし国民は失望します。「絶対的な健康を現代医学はもたらしてくれない」と。産業界はそれを見逃しません。健康産業が成立し、人々の健康不安は商売のためにかき立てられ続けることになります。

一方、医学会は患者の健康不安に対応するため、専門医を立ち上げ、カスケード系のように増加しました。さらに、各学会の本部を城下町とした仕組みは、地方大名にとっては苦痛な年貢米と参勤交代性となりました。勤務医不足と病院統廃合の流れと反比例して専門医と学会の数が増え続けるのです

さらに、悪循環は継続されます。「健康を求める方法」として、「健康に悪いこと」をこの世から追放しようという運動が起こります。「排除の輪」は容易に広がりました。「社会の不潔なゴミ」としてのタバコ・デブ・ハゲ・体臭などに対する排除、ホームレス襲撃や障害者差別、子どものいじめ問題、さらには老人へと止まりません。

医学会もメタボリックを2008年に特定健診に組み込み、ロコモティブも提唱されました。ストレスだらけの社会人は乾杯で黒烏龍茶を呑みながら野菜を食べ、年金暮らしの老人は公園で手を引かれながら歩かされ、縁側で一服できなくなりました。健康的に長生きすることを目指しながら、高齢化で増加する医療費を削ることが国益になるようになったのです。その影で増加し続ける自殺問題は自死がいいとネーミングだけ変わるようです。

そんな中、東日本大震災が起こり、東北の人々の辛抱強さと明るさに感動をいただきながらも、健康を追い続けた国と健康を患者目線で医者いじめのように報道し続けたマスコミがみせた震災復興に対する医療と原発への対応は、あまりにも遅く、陰湿で欲深いことに吐き気がしました。

民主党崩壊と震災を追い風にでもしたのか、国が求め続けた健康のために社会保障と税の一体改革の法案が昨年夏に成立し、消費税が引き上げられることになりました。(病院の損税は未解決↓)

そして昨年9月、この鬱々とした時代の中、安い地価、低金利を追い風に「江南まつもと整形外科」を開業しました。遅れましたが、同門の皆様、よろしく願いいたします。

こうして、健康の近代日本史を垣間見ると、私の時代はどうやら運がなかったのかなと思います。だって、お国が一番不健康だから。夢叶うなら、宇宙戦艦ヤマトで中国、北朝鮮、もしかしたら霞ヶ関に波動砲をかましてから、ワープして別な宇宙に逃げたい気分ですが、院長となってスタッフの生活を担っていますので、当たり前ですが国策通りに健康的に長生きしなくてははいけません。(ところ

で、健康的とは?)

最近、ジョギングしますと葉桜も趣がありますが、その下に満開の菜の花があったんだと気付かされます。煙草を止めてから、菜の花の香りに振り返るようになりました。勤務医時代と異なり、数字や成績に追われることなく、移りゆく景色を眺めながら人生のゴールまでゆっくり完走できたらと思うこの頃です。





新規開業

きよし整形外科クリニック 村田 潔

このたび、平成24年10月1日にきよし整形外科クリニックを開院いたしました、村田潔と申します。

当クリニックは、宮崎市佐土原町の佐土原駅東側に位置しており、すぐ近くにホームセンター佐土原ナフコさんがございます。

私は、佐土原町立広瀬小学校、日向学院中学、高校を経て、神奈川県相模原市にある、北里大学医学部へ進学いたしました。

北里大学病院整形外科入局後は、北里大学病院をはじめ、北里大学東病院、横浜南共済病院、湘南記念病院、沖縄県立北部病院等の出向先へ勤務の後、平成6年4月に、宮崎医科大学整形外科教室へ入局させていただき、江南病院と市民の森病院へ出向し、約2年間田島教授のご指導を仰ぎました。

その後は、宮崎県内にて勤務医を続けておりましたが、開業医であった父親の勧めもあり、開業を決意いたしました。ちょうどその頃、実家のすぐ近くに、整形外科のクリニッ

クを開業するのにとても条件の良い土地が、運よく見つかった為、現在地にて開院するに至った次第です。

私が幼少時代を過ごした佐土原町は、田園風景が広がる、とてもどかな田舎町でした。一ツ瀬川河口や、石崎浜にたびたび魚釣りに出かけたり、久峰観音近くの森へ、あけびやむかごを採りに出かけたものです。現在では、小川や田んぼは埋め立てられ、里山は造成地へと変わり、すっかりと新興住宅の様相を呈しております。

そのせいでしょうか、高齢者中心の整形外科診療とは限らずに、乳幼児から中学生位までの、若年層の患者さんの比率が高く、今さらながら、小児整形外科学の重要性を再認識させられている次第です。

開業して、まだわずかな時間しかたっておりませんので、まだまだ未熟な開業医ではございますが、どうぞ皆様方、御指導、御鞭撻のほど、宜しく願い申し上げます。



新規開業

ふくもと整形外科
福元 洋一

平成25年1月21日、帖佐教授ならびに同門の先生方のご理解のもと多大なご支援を賜り、宮崎市本郷南方にふくもと整形外科を開業させていただきました。

平成24年に入局させていただき約21年あまり医局にお世話になり、野球では選手としては貢献できませんでしたが、トータル約5年間程キャプテンをさせていただき雑用係として貢献させていただきました。大会前のキャプテン会議はもちろんのこと、大会当日の弁当やゴミ、試合前のじゃんけんなど試合が始まるまでは忙しく雑用をこなしていましたが、試合直前までキャプテンである自分も先発メンバーを知らされず、試合中もサインを出される田島前教授の横でバット引きやボールボーイをしながらキャプテンで何だろうとよく思っていました。しかし、田島前教授のご尽力で弱小だったチームを全国大会出場の常連だけでなく全国優勝するようなチームに作り上げ、田島前教授は正に名監督だと思います。

開業前の6年間は、医師会病院に勤務させ

ていただき、外来はあまりなく外傷などの手術を中心とした診療を行ってききましたので、開業して慢性疾患などの外来を中心とした診療を行っていくのにすごく不安を抱いていましたが、患者さんの笑顔に救われながら、時には病状の説明や治療にとまどうこともあります。回りから助けてもらって何とか頑張っています。今までは、自分にとって手術がすべてで手術することによって自分のやりがいや満足感を感じていましたが、今は地域のご高齢の患者さんと楽しく世間話をしながら診療をしていくことにやりがいを感じ、こういう道を選んでよかったかなと思ひ、まだ開業して2ヶ月ですが今のところ手術に対する未練もないように思います。

最後に、開業に際して快く送り出して下さった帖佐教授に感謝申し上げます。まだ、開業したてで右も左もわからない状態で、先生方にはご迷惑をお掛けすることも多いとは思いますが、今後ともご指導ご鞭撻のほどよろしくお願いいたします。

賛助会員入会ごあいさつ



松山 順太郎

この度は賛助会員として同門会へ入会させていただき誠にありがとうございました。この機を借りまして簡単ながら自己紹介をさせていただきたいと思います。生まれは横浜になりますが、平成10年に群馬大学を卒業したのち東京大学整形外科に入局いたしました。その後、大学院を含め14年間関連病院を回った後、宮崎の地に移りました。親族も含め宮崎は全くゆかりもない土地でしたが、最初に来た時から住みやすさを実感していました。まだ1年半ですが一度も戻りたいと思ったことがないのは、もともと都内の喧騒は性に合わなかったのだとつくづく思います。

趣味は先日参加させていただいた麻雀と学生の時にやっていたサッカー、それときままな旅行です。ただ、サッカーは現在のところ体力的にきつく、最近はほとんどやっておりません。そして宮崎に来てから始めようと思っているのがやはりゴルフです。クラブはすでに購入しているのですがまだまだでして、しっかり練習してはやく先生方とご迷惑おかけせず一緒に廻れるようになるのがこれからの目標です。

現在は都城にあるメディカルシティ 東部病院に勤務しております。

整形外科の他に循環器、消化器内科、外科、麻酔科の医師が勤務している約130床の総合病院です。整形外科としては外傷一般の手術もしております。

着任してまだ1年程度である上に、まだまだ若輩者であり皆様のお力を必要とすることが多いと思います。医局関連の行事にはこれからも参加させていただきたいと思いますので今後ともよろしく願いいたします。

新入会員自己紹介(正会員)



名 前：岡 村 龍

生年月日：昭和54年1月4日

出身高校：延岡学園高等学校

出身大学：東京医科大学

本年度より入局した岡村龍です。大学時代はサッカー部に所属していました。卒業後は東京警察病院、西東京警察病院で10年間勤務していました。大学のように大きな病院で働くのは初めてなので様々な面で諸先輩方にご迷惑をおかけすると思いますがよろしくお願いします。

— 一年を振り返って —

第85回日本整形外科学会野球大会優勝

平成24年5月20日



運動器の10年キャンペーン

障害者日本縦断駅伝

平成24年5月30日～6月1日



○ランナー濱中



○ランナー帖佐




○ランナー船元



○ランナー渡邊



 **日本臨床スポーツ医学会**
学生のためのスポーツ医学セミナー

平成24年8月26日 JA AZMホール



青島太平洋
マラソン大会

平成24年12月9日(日)



黒木浩史先生 平成24年11月1日 准教授就任

矢野浩明先生 平成24年12月1日 病院講師就任



同門会総会 議事報告

平成25年度総会：平成24年12月8日(土)16:30～17:30 宮崎観光ホテル

1. 平成24年度(H23.10/1～H24.9/30)報告

(1) 会 員 状 況 (平成24年9月30日現在)

正会員：158名、賛助会員：46名

(2) 入会・退会

正会員入会： 戚 美玲 先生
大塚 記史 先生
森田 雄大 先生

賛助会員入会： 谷村 俊次 先生

退 会： 古賀 和美 先生 退会(平成24年2月8日付)
千代反田 修 先生 退会(平成24年1月22日付)

結 婚： 大田 智美 先生(旧姓崎濱)(平成23年10月)
中村 嘉宏 先生(平成24年1月)
中村 志保子先生(旧姓山口)

開 業： 本部 浩一 先生(平成23年10月3日)
河野 立 先生(平成23年10月17日)
松元 征徳 先生(平成24年9月3日)
村田 潔 先生(平成24年10月1日)

(3) 事 業 報 告

H23年 10月 5日(水)：第1回役員会(年度始め)「宮崎県医師会館」
11月 24日(木)：第2回役員会「宮崎県医師会館」
11月 23日(祝)：第14回同門会テニス大会(優勝：谷島 満 先生)
12月 3日(土)：第3回役員会・総会・講演会・忘年懇親会「宮崎観光ホテル」
第7回同門会マージャン大会(優勝：河野雅行 先生)
12月 4日(日)：第20回同門会ゴルフ大会(優勝：三股恒夫 先生)
12月 ；同門会名簿・会則発行
H24年 4月 14日(土)：第4回役員会、新入生歓迎会「観光ホテル」
6月末 ；第23号同門会誌発行

(4) 教 室 支 援 (留学、学会等)

H24年 8月 26日(日)：日本臨床スポーツ学会 第8回学生のためのスポーツ医学セミナー
事務委託費・事務人件費

(5) 会計報告

平成24年度決算は監査報告があり総会にて承認された。

2. 平成25年度(H24.10/1～H25.9/30)事業計画・予算

(1) 平成25年度の予算案は総会(H24 12/8)にて承認された。

(2) 役員会開催：第1回役員会(平成24年10月24日、ホテルメリージュ)
第2回役員会(平成24年11月28日、ホテルメリージュ)
第3回役員会(平成24年12月8日、宮崎観光ホテル)
第4回役員会(平成25年4月13日、宮崎観光ホテル)

(3) 講演会：H24.12/8

講演Ⅰ 『整形外科医のための漢方医学(基礎)』

宮崎大学医学部整形外科 助教 濱田浩朗 先生

講演Ⅱ 『小児整形外科治療について』

宮崎県こども療育センター センター長 柳園賜一郎先生

(4) 奨励賞(第7回)：H24.12/8 受賞

① 大倉俊之 先生 『アドレノメジュリンの関節リウマチに対する治療効果』

② 小牧 亘 先生 『悪性腫瘍の浸潤・転移機構の解析』

*授賞式および講演は平成25年4月13日の新入医局医員歓迎会で実施予定

(5) 親睦行事：平成24年11月23日(祝)：第15回同門会テニス大会
平成24年12月8日(土)：第8回同門会マーじゃん大会
平成24年12月9日(日)：第21回同門会ゴルフ大会

(6) 同門会会則名簿発行：平成24年12月

(7) 同門会誌24号発行(平成25年5月)

*テーマ「未来へ」

(8) 新入医局員歓迎会(第4回役員会)：H25.4/13(宮崎観光ホテル)

(9) 教室支援(留学、学会など)：日整会野球大会、日整会サッカー大会

3. その他

(1) 平成26年度(H25.10/1～H26.9/30)同門会総会予定：H25.12.7(土)

教室同門の研究業績

◆著 書

(2011年1月～12月)

- 1) 運動器の痛みプライマリケア股関節の痛み
帖佐悦男 編集：菊地臣一
南江堂, p 60-70, 2011
- 2) クエスチョンバンク CBT2012No4
帖佐悦男
メディックメディア, p 200-207, 2011
- 3) 関節外科 FAI (femoroacetabular impingement)- 診断と治療の up to date-
帖佐悦男
メジカルビュー, 2011

◆原 著

- 1) 橈骨頭亜脱臼を伴う上腕骨小頭部離断性骨軟骨炎の2症例
石田康行、帖佐悦男、矢野浩明、山口奈美、崎瀨智美
日本肘関節学会雑誌, 17 (2) : p 97-100, 2010
- 2) Bennett lesion に対し鏡視下手術を施行した1例「共著」
長澤誠、石田康行、矢野浩明、山本恵太郎、河原勝博、田島卓也、山口奈美、
崎瀨智美、川野啓介、帖佐悦男
九州・山口スポーツ医・科研究会誌, 23 : p 56-59, 2011
- 3) Effect of genu recurvatum on the anterior cruciate ligament-deficient knee during gait
Katsuhiko Kawahara, Tomohisa Sekimoto, Shinji Watanabe, Keitaro Yamamoto,
Takuya Tajima, Nami Yamaguchi, Etsuo Chosa
Knee Surg Sports Traumatol Arthrosc, 9, 2011
- 4) FAI の概念
帖佐悦男
関節外科, 30 (12) : p 10-14, 2011
- 5) FAI の病態と疫学 (自然経過)
坂本武郎
関節外科, 30 (12) : p 15-16, 2011

- 6) Roles of the endoplasmic reticulum stress transducer OASIS in fracture healing
Taro Funamoto, Tomohisa Sekimoto, Tomohiko Murakami, Syuji Kurogi,
Kazunori Imaizumi, Etsuo Chosa
Bone, 49 (4) : p 724-732, 2011
- 7) TKA 手術手技の習得と指導
柏木輝行、矢野良英、花堂祥治、小島岳史、帖佐悦男
宮崎整形外科懇話会論文集, (15) : p 3-4, 2011
- 8) アテトーゼ型脳性麻痺に伴った頸髄症の治療成績
黒木浩史、濱中秀昭、猪俣尚規、増田寛、福嶋秀一郎、帖佐悦男、久保紳一郎
Journal of Spine Research, 2 (10) : p 1572-1577 2011
- 9) 馬尾症候群を呈した腰椎椎間板ヘルニアの検討
猪俣尚規、黒木浩史、濱中秀昭、増田寛、福嶋秀一郎、黒木修司、比嘉聖、樋口誠二、
永井琢哉、久保紳一郎、帖佐悦男
整形外科と災害外科, 60 (3) : p 440-445, 2011
- 10) 学校における運動器検診の実施について (2009 年度)
山本恵太郎、帖佐悦男、山口奈美、福嶋麻里、稲倉正孝、佐藤雄一、中村典生、
高村一志、田島直也、岡田光司、平川俊一
宮崎医学会誌, 2011
- 11) 鏡視下腱修復術々後再断裂例の検討
石田康行、帖佐悦男、矢野浩明、山本恵太郎、河原勝博、田島卓也、山口奈美、
崎濱智美、長澤誠、川野啓介
整形外科と災害外科, 60 (3) : p 373-377, 2011
- 12) 腱板断裂非手術例の追跡調査
石田康行、帖佐悦男、矢野浩明、崎濱智美
肩関節 別冊, 35 (2) : p 535-537, 2011
- 13) 若年者の進行期・末期股関節症の病態と診断 - 一次性、二次性、最近の F A I などを含めた病態と診断について -
帖佐悦男
関節外科, 30 (9) : p 10, 2011

- 14) 上腕骨骨頭に発生した軟骨芽細胞腫の1症例
宮元修子、矢野浩明、山本恵太郎、石田康行、田島卓也、山口奈美、崎濱智美、
長澤誠、帖佐悦男
整形外科と災害外科, 60 (4) : p 692-696, 2011
- 15) 人工股関節置換術におけるサポートリングの応力解析
趙昕、帖佐悦男、鳥取部光司、渡邊信二、河原勝博、鄧鋼
臨床バイオメカニクス, 32 : p 365-369, 2011
- 16) 人工膝関節置換術後に生じた膝周辺部脆弱性骨折の2例
坂田勝美、税所幸一郎、吉川大輔
宮崎整形外科懇話会論文集, 15 : p 5-6 2011
- 17) スポーツと腰痛 疫学調査から
帖佐悦男
脊椎脊髄ジャーナル, 24 (9) : p 840-845, 2011
- 18) 脊髄疾患に起因した神経原性側弯症の検討
黒木浩史、猪俣尚規、帖佐悦男、田島直也
Journal of Spine Research, 2 (11) : p 1805-1810, 2011
- 19) 大腿骨転子部骨折に対する 120° ,125° Gamma3Nail の比較
小島岳史、柏木輝行、花堂祥治、矢野良英、帖佐悦男
整形外科と災害外科, 60 (3) : p 502-508, 2011
- 20) 当院における関節リウマチに対するメトトレキサートとタクロリムスの使用成績
高見博昭
延岡医学会誌, (12) : p 45-49, 2011
- 21) 当院における腰椎椎間板ヘルニア治療（手術療法）について
後藤啓輔、久保紳一郎、弓削孝雄、井上篤、村上恵美、外園昭彦、田島直也
宮崎整形外科懇話会論文集, (15) : p 87, 2011
- 22) 当科における鏡視下腱板修復術（ARCR）の成績
石田康行、矢野浩明、山本恵太郎、河原勝博、田島卓也、山口奈美、崎濱智美、
長澤誠、宮元修子、帖佐悦男
宮崎整形外科懇話会論文集, (15) : p 83-84, 2011

- 23) 投球動作における身体運動と肩甲帯周囲の筋活動特性
宮崎茂明、石田康行、鳥取部光司、河原勝博、帖佐悦男
臨床バイオメカニクス, 32 : p 167-172, 2011
- 24) 透析 RA 患者に対するミゾリビンの使用経験
税所幸一郎、坂田勝美、小牧ゆか、濱田浩朗、帖佐悦男
九州リウマチ, 31 : p 98-103, 2011
- 25) 透析中の関節リウマチ患者に対するミゾリビンの使用経験
税所幸一郎、坂田勝美、小牧ゆか、濱田浩朗、帖佐悦男
九州リウマチ, 31 (2) : p 98-103, 2011
- 26) 二分脊椎による麻痺性踵足に対する前脛骨後方移行術の経験 - 歩行分析による評価 -
川野彰裕、柳園賜一郎、門内一郎、勝崙葉子
日本小児整形外科学会雑誌, 20 (1) : 2011
- 27) 反張膝が前十字靭帯再建術前後の歩行様式に与える影響
河原勝博、帖佐悦男、鳥取部光司、渡邊信二、石田康行、宮崎茂明、趙昕
臨床バイオメカニクス, 32 : p 377-383, 2011
- 28) 膝関節捻挫
帖佐悦男
医学と薬学, 66 (3) : p 423-428, 2011
- 29) 膝蓋腱完全断裂に対し、再建術施行しスポーツ復帰し得た1例
小島岳史、花堂祥治、矢野良英、柏木輝行、潮崎猛、田島卓也、帖佐悦男
九州・山口スポーツ医科学研究会誌, 23 : p 107-113, 2011
- 30) 膝蓋腱断裂に対し、E c k e r法にて治療した1例
小島岳史、花堂祥治、矢野良英、柏木輝行、塩崎猛、田島卓也、帖佐悦男
宮崎整形外科懇話会論文集, (15) : p 61-63, 2011
- 31) 膝前十字靭帯再再建術症例の検討
田島卓也、山本恵太郎、石田康行、山口奈美、崎濱智美、帖佐悦男
JOSKAS, 36 : p 258-268, 2011

- 32) ボツリヌス療法後に整形外科的治療を行った2症例の歩行分析評価
川野彰裕、柳園賜一郎、門内一郎
日本脳性麻痺ボツリヌス療法研究会記録集 11-14 : p 11-14, 2011
- 33) 宮崎県国体少年男子サッカーメデイカルサポート
小島岳史、山口奈美、樋口順一
日本臨床スポーツ医学会誌 Vol19 No.4, 2011
- 34) 有限要素法を用いた人工股関節再置換術におけるステム固定性の検討
鳥取部光司、帖佐悦男、趙昕、渡邊信二、河原勝博、鄧鋼
臨床バイオメカニクス, 32 : p 371-375, 2011
- 35) 強直性脊椎骨増殖症に合併した脊椎骨折の4症例
福嶋秀一郎、黒木浩史、濱中秀昭、猪俣尚規、帖佐悦男、久保紳一郎
Journal of Spine Research, 2 (5) : p 951-955, 2011
- 36) 鏡視下腱板修復術々後再断裂例の検討
石田康行、帖佐悦男、矢野浩明、山本恵太郎、河原勝博、田島卓也、山口奈美、
崎濱智美、長澤誠、川野啓介
整形外科と災害外科 60 巻, 60 (3) : 373-377, 2011
- 37) 上腕骨骨頭に発生した軟骨芽細胞腫の1症例「共著」
宮元修子、矢野浩明、山本恵太郎、石田康行、田島卓也、山口奈美、崎濱智美、
長澤誠、帖佐悦男
整形外科と災害外科 60 巻, 60 (4) : p 692-696, 2011
- 38) 投球動作における身体運動と肩甲帯周囲の筋活動特性 正常肩および投球障害肩での検討「共著」
宮崎茂明、石田康行、鳥取部光司、河原勝博、帖佐悦男
臨床バイオメカニクス VOL32, 32 : p 167-172, 2011
- 39) 当科における鏡視下腱板修復術の成績 術後1年のMRI像と臨床成績
石田康行、山本恵太郎、田島卓也、山口奈美、崎濱智美、帖佐悦男
JOSKAS 36 巻, 36 (2) : p 212-216, 2011
- 40) 反張膝が前十字靱帯再建術前後の歩行様式に与える影響「共著」
河原勝博、帖佐悦男、鳥取部光司、渡邊信二、石田康行、宮崎茂明、趙 昕
臨床バイオメカニクス, 32 : p 377-387, 2011

41) 膝前十字靭帯再再建術症例の検討「共著」

田島卓也、山本恵太郎、石田康行、山口奈美、崎濱智美、帖佐悦男
JOSKAS 36 卷, 36 (2) : p 258-263, 2011

◆ 総 説

1) チーム医療とメディカル役割「健康スポーツナースとは？」

帖佐悦男

肥満と糖尿病, 10 (5) : p 724-726, 2011, 9, 丹水社

2) 関節リウマチの最新の治療法

帖佐悦男

はまゆう, 38 (1766) : p 4-9, 2011, 4, 日本リウマチ友の会

3) 成長期のスポーツ外傷・障害と落とし穴(第6回) 肩部

石田康行、帖佐悦男

臨床整形外科, 46 (4) : p 359-361, 2011, 4, 医学書院

4) 北京パラリンピックにおけるメディカルサポート

鳥取部光司、上野友之、藤原清香、陶山哲夫、田島文博、草野修輔、和田野安良、
帖佐悦男

日本臨床スポーツ医学会誌, 19 (2) : p 362-366, 2011, 4, 文光堂

5) 成長期のスポーツ外傷 障害と落とし穴(第6回) 肩部(解説)

石田康行、帖佐悦男

臨床整形外科, 46 (4) : p 359-361, 2011, 4, (株)医学書院

6) 成長期のスポーツ外傷・障害と落とし穴(第7回) 足関節

河原勝博、帖佐悦男

臨床整形外科, 46 (5) : p 425-428, 2011, 5, 医学書院

7) 成長期のスポーツ外傷・障害と落とし穴(第8回) 腰部

川添浩志、帖佐悦男

臨床整形外科, 46 (6) : p 545-548, 2011, 6, 医学書院

- 8) 成長期のスポーツ外傷・障害と落とし穴(第9回) 股関節痛
小島岳史、帖佐悦男
臨床整形外科, 46 (7): p 625-627, 2011, 7, 医学書院
- 9) 成長期のスポーツ外傷・障害と落とし穴(第10回) 肘関節
三橋龍馬、石田康行、帖佐悦男
臨床整形外科, 46 (8): p 723-726, 2011, 8, 医学書院
- 10) 「子どものスポーツ障害の予防」序文
帖佐悦男
日整会誌, 85 (9): p 537-538, 2011, 9, 公益財団法人日本整形外科学会
- 11) 成長期のスポーツ外傷・障害と落とし穴(第11回) 肘部(2)
井上 篤、帖佐悦男
臨床整形外科, 46 (9): p 843-846, 2011, 9, 医学書院
- 12) メトトレキサート、生物学的製剤時代の関節リウマチに対する手術療法の変遷
税所幸一郎
九州リウマチ, 31: p 87-92, 2011, 9
- 13) 成長期のスポーツ外傷・障害と落とし穴(第12回) 股関節
田島卓也、帖佐悦男
臨床整形外科, 46 (10): p 943-945, 2011, 10, 医学書院
- 14) 成長期のスポーツ外傷・障害と落とし穴(第13回) 手指
崎濱智美、帖佐悦男
臨床整形外科, 46 (12): p 1131-1133, 2011, 12, 医学書院

◆学会報告

- 1) NinJa にみる RA 関連手術(2008年度)
税所幸一郎、坂田勝美、吉川大輔
第25回宮崎県リウマチ研究会, 2010, 2, 宮崎

- 2) NinJa を利用した関節リウマチ患者の骨関節手術の分析 -2008 年度
税所幸一郎、當間重人、坂田勝美、吉川教恵
第 64 回国立病院総合医学会, 2010, 11, 福岡
- 3) [DPC 準備病院における調査データ (様式 1) の質監査]
丸山こずえ、丸田永、橋本勉、税所幸一郎
第 64 回国立病院総合医学会, 2010, 11, 福岡
- 4) 関節リウマチにおける強直肘に対して切除関節形成を行った 1 例
坂田勝美、税所幸一郎、吉川教恵
第 61 回宮崎県整形外科懇話会, 2010, 12 宮崎
- 5) DPC 調査データ (様式 1) の精度向上を目指して
丸山こずえ、小川幸代、橋本勉、丸田永、税所幸一郎
日本医療マネジメント学会 第 4 回宮崎支部学術集会, 2011, 1, 都城
- 6) NinJa にみる人工関節の推移
税所幸一郎
第 26 回宮崎県リウマチ研究会, 2011, 2, 宮崎
- 7) 手指粘液嚢腫に対する手術法の検討
高見博昭、麻生邦一
第 32 回九州手の外科研修会, 2011, 2, 大分
- 8) 宮崎県国民体育大会候補少年選手におけるメディカルチェック
- 2010 年度の報告ならびに課題について -
河原勝博、帖佐悦男、山本恵太郎、田島卓也、山口奈美、黒木修司、長澤誠、
川野啓介、宮崎茂明、田島直也、尾崎勝博
第 44 回宮崎県スポーツ学会 -, 2011, 2, 宮崎
- 9) 宮崎県国民体育大会候補少年男子ハンドボール選手に対するメディカルチェック
- 3 年間継続実施した選手の調査結果 -
長澤誠、山本恵太郎、矢野浩朗、河原勝博、石田康行、田島卓也、山口奈美、
崎濱智美、川野啓介、帖佐悦男、宮崎茂明、田島直也、尾崎勝博
第 44 回宮崎県スポーツ学会, 2011, 2, 宮崎

- 10) 宮崎県国民体育大会候補少年女子バスケットボール選手に対するメディカルチェック
-3年間継続実施した選手の調査結果-
川野啓介、山本恵太郎、矢野浩朗、河原勝博、石田康行、田島卓也、山口奈美、
崎濱智美、長澤誠、帖佐悦男、宮崎茂明、田島直也、尾崎勝博
第44回宮崎県スポーツ学会, 2011, 2, 宮崎
- 11) 超音波刺激と電気刺激の併用が筋硬度に及ぼす影響
大山史朗、尾崎勝博、児玉祐二、福本周市、田島直也、竜田庸平
第44回宮崎県スポーツ学会, 2011, 2, 宮崎
- 12) 膝蓋靭帯炎に対するリハビリテーション～疼痛発生メカニズムに着目して～
宮本浩幸、尾崎勝博、井上篤、田島直也
第44回宮崎県スポーツ学会, 2011, 2, 宮崎
- 13) 当院におけるアキレス腱断裂に対する保存療法
川添浩史、深野木快士
第44回宮崎県スポーツ学会, 2011, 2, 宮崎
- 14) 手指関節に対する新しいエコー法の試み～水中エコー法
濱田浩朗、帖佐悦男、税所幸一郎
第41回九州リウマチ学会, 2011, 3, 宮崎
- 15) 透析RA患者に対するミゾリピンの使用経験
税所幸一郎、坂田勝美、吉川教恵、濱田浩朗、帖佐悦男
第41回九州リウマチ学会, 2011, 3, 宮崎
- 16) NinJaにみる高齢リウマチ患者治療の現状
末永康夫、吉澤滋、末松栄一、本川哲、阿部庸次郎、豊原一作、潮平芳樹、
税所幸一郎、當間重人
第41回九州リウマチ学会, 2011, 3, 宮崎
- 17) 小指陳旧性PIP関節橈側側副靭帯損傷に対する治療経験
崎濱智美、矢野浩明、帖佐悦男
第54回日本手外科学会学術集会, 2011, 4, 青森

- 18) Neurogenic scoliosis caused by spinal cord diseases
Hiroshi Kuroki, Naoki Inomata, Etsuo Chosa, Naoya Tajima
The 8th Combined Congress of the Spine and Pediatric Sections,
Asia Pacific Orthopaedic Association, 2011, 6, 岐阜
- 19) 豆状三角骨関節に発生したガングリオンの一例
山口志保子、矢野浩明、山本恵太郎、石田康行、河原勝博、田島卓也、山口奈美、
崎濱智美、永井琢哉
第 121 回西日本整形・災害外科学会学術集会, 2011, 6, 福岡
- 20) C7 神経根障害が原因と考えられた Cervical angina の 1 例
菅田耕、黒木浩史、濱中秀昭、猪俣尚規、増田寛、樋口誠二、宮元修子、帖佐悦男
第 121 回西日本整形・災害外科学会学術集会, 2011, 6, 福岡
- 21) 当科における超高齢者の頸椎手術の術後成績
濱中秀昭、黒木浩史、猪俣尚規、増田寛、黒木修司、菅田耕、樋口誠二、
川野啓介、帖佐悦男
第 75 回西日本脊椎研究会, 2011, 6, 福岡
- 22) 地域スポーツクラブにおけるロコモティブシンドロームの検討
鳥取部光司、帖佐悦男、渡邊信二、河原勝博、鶴田来美、蒲原真澄
第 23 回日本運動器科学会, 2011, 7, 新潟
- 23) ロコモ教室参加者の歩行分析
河原勝博、帖佐悦男、鳥取部光司、宮崎茂明
第 23 回日本運動器科学会, 2011, 7, 新潟
- 24) 高悪性度骨・軟部腫瘍腫瘍に対するカフェイン併用化学療法その他施設共同研究
林克洋、土屋弘行、武内章彦、星学、家口尚、青野勝成、田地野崇宏、山田仁、
帖佐悦男、坂本武郎、坂山憲史、木谷彰岐、横内雅博、永野聡、磯部研一、
前原博樹、當銘保則、折笠秀樹、赤澤宏平
第 44 回日本整形外科学会骨軟部腫瘍学術集会, 2011, 7, 京都
- 25) NinJa を利用した関節リウマチ患者の骨関節手術の分析 -2009 年度について
税所幸一郎、當間重人、帖佐悦男、濱田浩朗
第 55 回日本リウマチ学会総会・学術集会, 2011, 7, 神戸

- 26) Ponseti 法による先天性内反足の短期治療成績
川野彰裕、柳園賜一郎、門内一郎
第 62 回宮崎整形外科懇話会, 2011, 7, 宮崎
- 27) 頸椎椎弓形成術手術創に対するダーマボンド®の使用経験
増田寛、黒木浩史、濱中秀昭、猪俣尚規、樋口誠二、菅田耕、川野啓介、
李徳哲、帖佐悦男
第 62 回宮崎整形外科懇話会, 2011, 7, 宮崎
- 28) Menisco Capsular Separation に対する鏡視下半月縫合術の検討
小島岳史、花堂祥治、矢野良英、柏木輝行、田島卓也、帖佐悦男
第 62 回宮崎整形外科懇話会, 2011, 7, 宮崎
- 29) 2010 年度宮崎県少年野球検診に関する報告 —子どもに笑顔を、野球傷害を防ごう—
長澤誠、石田康行、帖佐悦男
第 62 回宮崎整形外科懇話会, 2011, 7, 宮崎
- 30) 豆状三角骨関節に発生したガングリオンの一例
山口志保子、矢野浩明、山本恵太郎、石田康行、田島卓也、山口奈美、崎濱智美、
永井琢哉、帖佐悦男
第 62 回宮崎整形外科懇話会, 2011, 7, 宮崎
- 31) 高度骨欠損に対する人工膝関節置換術の治療経験
池尻洋史、帖佐悦男、坂本武郎、渡邊信二、関本朝久、濱田浩朗、中村嘉宏、
甲斐糸乃、宮元修子
第 62 回宮崎整形外科懇話会, 2011, 7, 宮崎
- 32) 変形性膝関節症に対する単顆型片側人工関節置換術 (UKA)
川添浩史、深野木快士
第 62 回宮崎整形外科懇話会, 2011, 7, 宮崎
- 33) 腰椎分離症に対する分離部修復術の 1 例
村上恵美、田島直也、久保紳一郎、井上篤、野崎正太郎、弓削孝雄、後藤啓輔
第 62 回宮崎整形外科懇話会, 2011, 7, 宮崎

- 34) ボツリヌス療法後に整形外科的治療を行った2症例の歩行分析評価
川野彰裕、柳園賜一郎、門内一郎
第7回日本脳性麻痺ボツリヌス療法研究会 (JBCP), 2011, 7, 東京
- 35) NOVEL SURGICAL PROCEDURES IN AVASCULAE NECROSIS OF FEMORAL HEAD WITH COLLAPSE OF FEMORAL HEAD-PROSPECTIVE CONSECUTIVE SERIES WITH A 10-YEAR FOLLOW-UP PERIOD-
Yoshihiro NAKAMURA, Etsuo CHOSA, Takero SAKAMOTO, Shinji WATANABE,
Tomohisa SEKIMOTO, Hiroaki HAMADA, Shotaro NOZAKI, Hiroshi IKEJIRI, Itono KAI
SICOT2011, 2011, 9, Prague Czech Republic
- 36) 症例検討 (infantile idiopathic scoliosis)
黒木浩史、猪俣尚規
第10回日本乳・幼児側湾症研究会, 2011, 9, 札幌
- 37) DPC導入に向けた調査データの精度向上を目指して
丸山こずえ、橋本勉、執行弘泰、川口眞理、税所幸一郎
第37回日本診療情報管理学会学術大会, 2011, 9, 福岡
- 38) 2010年度宮崎県少年野球検診に関する報告 —子どもに笑顔を、野球傷害を防ごう—
長澤誠、石田康行、矢野浩明、山本恵太郎、河原勝博、田島卓也、山口奈美、
崎濱智美、川野啓介、帖佐悦男
第37回日本整形外科スポーツ医学会学術集会, 2011, 9, 福岡
- 39) 「子どもに笑顔を、野球傷害を防ごう」プロジェクトに関する報告-第1報-
長澤誠、石田康行、森原徹、山本智章、松浦哲也、柏口新二、岩堀祐介、
能勢康史、帖佐悦男
第37回日本整形外科スポーツ医学会学術集会,
2011, 9, 福岡
- 40) ラグビー競技会における医療体制向上と重度外傷発生予防を目的とした安全度評価法の活用
【学術プロジェクト報告】
田島卓也、帖佐悦男、山本恵太郎、河原勝博、中村嘉宏、山口奈美、吉川大輔、
吉川教恵、比嘉 聖、福田 一、柏木輝行
第37回日本整形外科スポーツ医学会学術集会, 2011, 9, 福岡

- 41) 足趾関節に対する水中エコー法の試み
濱田浩朗、帖佐悦男、税所幸一郎
第 42 回リウマチ学会, 2011, 9, 熊本
- 42) 透析性頸椎症に対する手術療法の検討－病態に応じた術式選択について－
黒木浩史
第 20 回日本脊椎インストゥルメンテーション学会, 2011, 10, 久留米
- 43) ヘバーデン結節（変形性関節症）に発症した粘液嚢腫に対する当院での手術治療の成績
高見博昭
第 23 回延岡医学会総会, 2011, 10, 延岡
- 44) 可変型遺伝子トラップ法を用いた骨軟骨疾患に関与する新規遺伝子の探索
黒木修司、関本朝久、船元太郎、崎濱智美、濱田浩朗、荒木喜美、荒木正健、
山村研一、帖佐悦男
第 26 回日本整形外科学会基礎学術集会, 2011, 10, 前橋
- 45) 鏡視下腱板修復術後腱板修復状態と術後可動域推移の関係
石田康行、帖佐悦男、矢野浩明、崎濱智美
第 38 回日本肩関節学会, 2011, 10, 福岡
- 46) 寛骨臼骨折に対する modified stoppa approach の有用性について
中村嘉宏、帖佐悦男、坂本武郎、渡邊信二、関本朝久、濱田浩朗、池尻洋史、甲斐糸乃
第 38 回日本股関節学会学術集会, 2011, 10, 鹿児島
- 47) 当科側湾症外来における脊柱側湾症初診時進行例－初診時 Cobb 角 50° 以上の症例での検討－
黒木浩史、猪俣尚規、帖佐悦男、田島直也
第 45 回日本側湾症学会, 2011, 10, 久留米
- 48) 肩腱板断裂の手術適応と今後の展望
石田康行、矢野浩明、山本恵太郎、河原勝博、田島卓也、山口奈美、崎濱智美、
山口志保子、永井琢哉、帖佐悦男
第 122 回西日本整形・災害外科学会学術集会, 2011, 11, 熊本
- 49) 帯状疱疹に合併した C5 運動麻痺の 1 例
李徳哲、川野啓介、樋口誠二、猪俣尚規、濱中秀昭、黒木浩史、帖佐悦男
第 122 回西日本整形・災害外科学会学術集会, 2011, 11, 熊本

- 50) 頰椎椎弓形成術手術創に対するダーマボンドの使用経験
増田寛、黒木浩史、濱中秀昭、猪俣尚規、樋口誠二、川野啓介、李徳哲、帖佐悦男
第 122 回西日本整形・災害外科学会学術集会, 2011, 11, 熊本
- 51) 膝外側円板状半月に合併した大腿骨内顆離断性骨軟骨炎の治療経験
山口志保子、山口奈美、山本恵太郎、田島卓也、矢野浩明、石田康行、崎濱智美、
梅崎哲矢、帖佐悦男
第 122 回西日本整形・災害外科学会学術集会, 2011, 11, 熊本
- 52) 宮崎県国体少年男子サッカーメディカルサポート
小島岳史、山口奈美、樋口潤一
第 22 回日本臨床スポーツ医学会学術集会, 2011, 11, 青森
- 53) 地方におけるラグビー日本代表キャンプに対するメディカルサポート体制
-2019 年ラグビーワールドカップ日本大会に向けて-
田島卓也、帖佐悦男、山本恵太郎、中村嘉宏、吉川大輔、山口奈美、古谷正博、村上秀孝
第 22 回日本臨床スポーツ医学会学術集会, 2011, 11, 青森
- 54) トップレベル野球選手の育成過程 (第一報)
-社会人野球選手の野球暦と成長期肘損傷について-
能勢康史、帖佐悦男、柏口新二
第 22 回日本臨床スポーツ医学会学術集会, 2011, 11, 青森
- 55) 2010 年度宮崎県少年野球検診報告 肘のエコーで異常を認めたがレントゲン上異常を
認めなかった選手に着目して -子供に笑顔を、野球障害を防ごう-
長澤誠、石田康行、山本恵太郎、河原勝博、田島卓也、山口奈美、帖佐悦男
第 22 回日本臨床スポーツ医学会学術集会, 2011, 11, 青森
- 56) 国際青島太平洋マラソンの医務活動について
河原勝博、帖佐悦男、山本恵太郎、田島卓也、山口奈美、田島直也
第 22 回日本臨床スポーツ医学会学術集会, 2011, 11, 青森
- 57) 下腿義足の応力分散効果の検討
鳥取部光司、帖佐悦男、ZhaoXin、山子剛、渡邊信二、DengGang
第 38 回日本臨床バイオメカニクス学会, 2011, 11, 神戸

- 58) 白蓋形成術前術後における歩行分析
河原勝博、帖佐悦男、鳥取部光司、渡邊信二、宮崎茂明、XinZhao、山子剛
第 38 回日本臨床バイオメカニクス学会, 2011, 11, 神戸
- 59) 人工股関節置換術におけるサポートリングの応力解析: 第 2 報 骨欠損の影響
ZhaoXin、帖佐悦男、鳥取部光司、山子剛、渡邊信二、DengGong
第 38 回日本臨床バイオメカニクス学会, 2011, 11, 神戸
- 60) 手指関節における水中エコーによる評価
濱田浩朗、税所幸一郎、帖佐悦男
第 39 回日本関節病学会, 2011, 11, 横浜
- 61) 手指関節における水中エコーによる評価
濱田浩朗、税所幸一郎、帖佐悦男
第 39 回日本関節病学会, 2011, 11, 横浜
- 62) 歩行分析検査に対するアンケート調査
河原勝博、帖佐悦男、鳥取部光司、濱田浩朗、山本恵太郎
第 48 回日本リハビリテーション医学会学術集会, 2011, 11, 千葉
- 63) TSB 下腿義足と PTB 下腿義足の接触応力解析
鳥取部光司、帖佐悦男、濱田浩朗、坂本武郎、野崎正太郎、河原勝博
第 48 回日本リハビリテーション医学会学術集会, 2011, 11, 千葉
- 64) NinJa を利用した関節リウマチ患者の関節手術に分析 -2009 年度
税所幸一郎、當間重人、坂田勝美、小牧ゆか
第 65 回国立病院総合医学会, 2011, 11, 岡山
- 65) 脊椎側弯症に対する後方矯正固定術における instrumentation failure の検討
黒木浩史、猪俣尚規、濱中秀昭、増田寛、樋口誠二、川野啓介、李徳哲、帖佐悦男
第 76 回西日本脊椎研究会, 2011, 11, 福岡
- 66) 学校における運動器検診の実施について
山口奈美、帖佐悦男、渡邊信二、山本恵太郎、柳園賜一郎、川野彰裕
第 22 回日本小児整形外科学会学術集会, 2011, 12, 京都

- 67) ペルテス病手術例の FAI
渡邊信二、帖佐悦男、柳園賜一郎、川野彰裕
第 22 回日本小児整形外科学会学会学術集会, 2011, 12, 京都
- 68) ボツリヌス療法後に整形外科的治療を行った症例の歩行分析評価
川野彰裕、帖佐悦男、柳園賜一郎、門内一郎、渡邊信二
第 22 回日本小児整形外科学会学会学術集会, 2011, 12, 京都
- 69) Menisco Capsular Separation に対する鏡視下半月縫合術の検討
小島岳史、花堂祥治、矢野良英、柏木輝行、田島卓也、帖佐悦男
第 24 回九州山口スポーツ医科学研究会, 2011, 12, 福岡
- 70) ラグビー選手の上腕二頭筋腱遠位端断裂に対するハムストリング腱を用いた再建術の経験
梅崎哲矢、田島卓也、山本恵太郎、山口奈美、矢野浩明、石田康行、崎濱智美、
山口志保子、帖佐悦男
第 24 回九州山口スポーツ医科学研究会, 2011, 12, 福岡
- 71) 高校女子選手の競技別身体特性の検討～テニス VS バスケット・カヌー～
渡辺将成、山本恵太郎、河原勝博、田島卓也、宮崎茂明、山口奈美、鳥取部光司、
帖佐悦男
第 24 回九州山口スポーツ医科学研究会, 2011, 12, 福岡
- 72) 右唇顎口蓋裂を伴った超低出生体重児の一例
木本七絵、山元唯、笠井新一郎、帖佐悦男、鳥取部光司
第 25 回言語発達障害研究会, 2011, 12, 那覇
- 73) アナトミカル型セメントレス・システムにおける荷重伝達様式の術後評価
－術前・術後 CT 画像に基づいた患者別有限要素解析－
山子剛、ZhaoXin、渡邊信二、鳥取部光司、帖佐悦男、DengGang、石井孝子、
中根惟武
第 38 回日本臨床バイオメカニクス学会, 2011, 12, 神戸
- 74) FAI の診断と治療
坂本武郎、帖佐悦男
第 39 回日本関節病学会, 2011, 12, 横浜

- 75) LCP Pediatric Hip Plate の使用経験
川野彰裕、柳園賜一郎、門内一郎
第 63 回宮崎整形外科懇話会, 2011, 12, 宮崎
- 76) 骨粗鬆症性脊椎圧迫骨折に対し椎体形成術 (balloon kyphoplasty) を行った 1 例
樋口誠二、黒木浩史、濱中秀昭、猪俣尚規、増田寛、深尾悠、帖佐悦男
第 63 回宮崎整形外科懇話会, 2011, 12, 宮崎
- 77) 当科での体外衝撃波治療について (第 2 報)
河原勝博、帖佐悦男
第 63 回宮崎整形外科懇話会, 2011, 12, 宮崎
- 78) 適応厳選後の鏡視下腱板修復術の成績
石田康行、矢野浩明、山本恵太郎、河原勝博、田島卓也、山口奈美、大田智美、
山口志保子、梅崎哲矢、帖佐悦男
第 63 回宮崎整形外科懇話会, 2011, 12, 宮崎
- 79) 寛骨臼骨折に対する Surgicalmodified Stoppa approach の治療経験
中村嘉宏、帖佐悦男、坂本武郎、関本朝久、渡邊信二、濱田浩朗、池尻洋史、
小牧亘、李徳哲、野崎正太郎
第 63 回宮崎整形外科懇話会, 2011, 12, 宮崎
- 80) 治療に難渋した腹部外傷伴う四肢多発外傷の 1 例
松岡知己、大倉俊之、福田一、市成秀樹、江川久子、益山松三、矢野浩明、
三橋龍馬
第 63 回宮崎整形外科懇話会, 2011, 12, 宮崎
- 81) 上腕骨骨幹部偽関節の 2 例
大田智美、矢野浩明、山本恵太郎、石田康行、田島卓也、山口奈美、梅崎哲矢、
山口志保子、帖佐悦男
第 63 回宮崎整形外科懇話会, 2011, 12, 宮崎
- 82) 大腿骨転子部骨折に対する 120° y ネイルの使用経験
小島岳史、花堂祥治、矢野良英、柏木輝行
第 63 回宮崎整形外科懇話会, 2011, 12, 宮崎

- 83) Juvenile Tillaux fracture に対し生体内吸収性螺子 (PLLA screw) にて内固定した1例
小島岳史、花堂祥治、矢野良英、柏木輝行
第 63 回宮崎整形外科懇話会, 2011, 12, 宮崎

◆ポスター

- 1) Treatment of Calcaneus Fracture Using beta-tricalcium phosphate ceramic with 60% Porosity
Yuka Komaki, Hirokazu Komaki, Wataru Komaki, Ichimaro Komaki and Etsuo Chosa
16th Congress of the Asia Pacific Orthopaedic Association, 2010, 11, Taipei
- 2) 可変型遺伝子トラップ法を用いた骨軟骨疾患に関与する新規遺伝子の探索
関本朝久、帖佐悦男、坂本武郎、渡邊信二、濱田浩朗、野崎正太郎、池尻洋史、
中村嘉宏、船元太郎、黒木修司、荒木喜美、荒木正健、山村研一
第 83 回日本整形外科学会学術総会, 2011, 5, 横浜
- 3) 変形性股関節症における歩行時重心動揺性の検討
渡邊信二、帖佐悦男、坂本武郎、関本朝久、濱田浩朗、野崎正太郎、池尻洋史、
中村嘉宏
第 83 回日本整形外科学会学術総会, 2011, 5, 横浜
- 4) 鏡視下腱板修復術後の吸収性アンカー孔の検討
石田康行、山本恵太郎、田島卓也、山口奈美、崎濱智美、帖佐悦男
第 3 回日本関節鏡・膝・スポーツ整形外科学会, 2011, 6, 札幌
- 5) 膝前十字靭帯後外側線維単独損傷に対する治療経験
山口奈美、山本恵太郎、石田康行、田島卓也、崎濱智美、帖佐悦男
第 3 回日本関節鏡・膝・スポーツ整形外科学会, 2011, 6, 札幌
- 6) 膝複合靭帯修復・再建術症例の検討
田島卓也、山本恵太郎、石田康行、山口奈美、崎濱智美、帖佐悦男
第 3 回日本関節鏡・膝・スポーツ整形外科学会, 2011, 6, 札幌
- 7) 骨折治癒過程における OASIS のはたらき
船元太郎、関本朝久、黒木修司、今泉和則、帖佐悦男
第 29 回日本骨代謝学会学術集会, 2011, 7, 大阪

- 8) 可変型遺伝子トラップ法を用いた骨軟骨疾患に関与する新規遺伝子の探索
黒木修司、関本朝久、船元太郎、帖佐悦男
第 29 回日本骨代謝学会学術集会, 2011, 7, 大阪
- 9) 巨大ベーカー嚢腫の 1 例
濱田浩朗、大平卓、税所幸一郎、帖佐悦男、関本朝久、坂本武郎
第 55 回日本リウマチ学会総会・学術集会, 2011, 7, 神戸
- 10) サポートリングを用いた人工関節置換術の応力解析
鳥取部光司、帖佐悦男、濱田浩朗、坂本武郎、関本朝久
第 55 回日本リウマチ学会総会・学術集会, 2011, 7, 神戸
- 11) An electromyogram study of infraspinatus muscle atrophy after rotator cuff tear.
Yasuyuki Ishida, Hiroaki Yano, Keitaro Yamamoto, Katsuhiro Kawahara,
Takuya Tajima, Nami Yamaguchi, Tomomi Sakihama, Etsuo Chosa
第 7 回アジア肩関節学会. 2011, 7, 那覇
- 12) (自家ハムストリング腱を用いた) 膝蓋靭帯再建術後にスポーツ復帰し得た例 2 例
永井琢哉、帖佐悦男、山本恵太郎、田島卓也、山口奈美、小島岳史、柏木輝行
第 37 回日本整形外科学会スポーツ医学会学術集会, 2011, 9, 福岡
- 13) 加速度センサーを用いた柔道での受け身動作の解析
黒木修司、関本朝久、船元太郎、帖佐悦男
第 26 回日本整形外科学会基礎学術集会, 2011, 10, 前橋
- 14) ロコモーショントレーニングが歩行能力に及ぼす効果
河原勝博、帖佐悦男、鳥取部光司、渡邊信二、関本朝久
第 26 回日本整形外科学会基礎学術集会, 2011, 10, 前橋
- 15) 遠位横止め式ステムを用いた人工股関節再置換術の中期成績
坂本武郎、帖佐悦男、渡邊信二、関本朝久、濱田浩朗、池尻洋史、中村嘉宏、甲斐糸乃
第 38 回日本股関節学会学術集会, 2011, 10, 鹿児島
- 16) 白蓋再建に用いた顆粒ハイドロキシアパタイト骨移植が原因と思われる巨大偽腫瘍を呈した人工股関節再置換の 1 例
中村嘉宏、帖佐悦男、坂本武郎、渡邊信二、関本朝久、濱田浩朗、池尻洋史、甲斐糸乃
第 38 回日本股関節学会学術集会, 2011, 10, 鹿児島

17) FAI (Femoroacetabular impingement) の保存療法例についての検討

坂本武郎、帖佐悦男、渡邊信二、関本朝久、濱田浩朗、池尻洋史、中村嘉宏、甲斐糸乃
第 38 回日本股関節学会学術集会, 2011, 10, 鹿児島

18) 臼蓋形成不全症の CNV 解析

関本朝久、帖佐悦男、船元太郎、濱田浩朗、坂本武郎、渡邊信二、池尻洋史、
中村嘉宏、甲斐糸乃
第 38 回日本股関節学会学術集会, 2011, 10, 鹿児島

19) 人工股関節置換術後の歩行時重心の評価

渡邊信二、帖佐悦男、坂本武郎、関本朝久、濱田浩朗、池尻洋史、中村嘉宏、甲斐糸乃
第 38 回日本股関節学会学術集会, 2011, 10, 鹿児島

◆シンポジウム

1) 肩腱板断裂の手術適応と今後の展望

石田康行、矢野浩明、山本恵太郎、河原勝博、田島卓也、山口奈美、崎濱智美、
山口志保子、帖佐悦男
第 122 回西日本整形災害外科学会, 2011, 11, 熊本

2) 股関節のバイオメカニクス -骨切り術-

帖佐悦男
第 38 回日本股関節学会学術集会, 2011, 10, 鹿児島

3) 整形外科無床診療所の生き残り戦略 -運動器が得意なかかりつけ医という選択

谷口博信
第 24 回日本臨床整形外科学会, 2011, 7, 長崎

◆講 演

1) リウマチについて

税所幸一郎
第 33 回市民のための健康講座, 2010, 2, 都城

2) 整形外科手術における静脈血栓塞栓症について

税所幸一郎
静脈血栓塞栓症に関する研修, 2010, 4, 都城

- 3) 当院におけるトシリズマブの使用経験
税所幸一郎
都城地区整形外科医会, 2010, 7, 都城
- 4) 都城における Infliximab 長期投与症例
税所幸一郎
都城膠原病リウマチ治療セミナー, 2010, 8, 都城
- 5) 重症心身障害者に対するボツリヌス療法について ~整形外科医の立場から~
川野彰裕
NHO 研究ネットワークグループ研究会, 2011, 3, 鹿児島
- 6) 小児の運動器疾患と学童期検診-ロコモ(ロコモティブシンドローム) 対策を含めて-
帖佐悦男
第 97 回三重県臨床整形外科医会学術講演会, 2011, 6, 津
- 7) 成長期の身体特性とスポーツ傷害
帖佐悦男
第 9 回 Shinshu Orthopaedic Seminar, 2011, 6, 松本
- 8) 宮崎県におけるスポーツメディカルサポートシステムの構築
帖佐悦男
山梨県整形外科医会, 2011, 6, 甲府
- 9) 膝痛について
税所幸一郎
第 65 回市民のための健康講座, 2011, 6, 都城
- 10) 脳性麻痺下肢痙縮に対するボツリヌス療法の評価について-三次元歩行分析を用いて-
川野彰裕
小児脳性麻痺におけるボツリヌス療法勉強会, 2011, 7, 沖縄
- 11) 介護予防の最前線 -ロコモとメタボ-
帖佐悦男
全国国民健康保険組合協会九州支部役職員研修会, 2011, 8, 宮崎

- 12) スポーツ診療における診断に際してのピットフォール
帖佐悦男
第5回金沢サンセットセミナー, 2011, 9, 金沢
- 13) 関節リウマチと地域連携
帖佐悦男
第42回宮崎県北地区整形外科医会, 2011, 10, 延岡
- 14) 健康と長寿は運動から！-ロコモティブシンドロームを防ごう-
帖佐悦男
スポーツ医学公開講座, 2011, 11, 京都
- 15) スポーツ診療における診断に際してのピットフォール
帖佐悦男
第22回日本臨床スポーツ医学会学術集会, 2011, 11, 青森
- 16) 健康寿命延伸を目指して ロコモ メタボ予防-学童期から高齢者対策-
帖佐悦男
浜松ロコモ研究会(第3回), 2011, 11, 浜松
- 17) 近年のリウマチ治療の流れ-薬物と手術-
税所幸一郎
第2回都城膠原病リウマチ治療セミナー, 2011, 11, 都城
- 18) 骨粗鬆症治療の最近の話題
帖佐悦男
西諸医師会・西諸内科医会合同学術講演会, 2011, 12, 小林
- 19) 当センターにおける脳性麻痺痙縮に対するボツリヌス療法について
川野彰裕
宮崎痙縮コアミーティング, 2011, 12, 宮崎
- 20) 発育期と運動 -整形外科系-
帖佐悦男
第24回健康スポーツ医学講習会, 2011, 11, 東京都文京区

編集後記



今回のテーマは“未来へ”とさせていただきました。抽象的なテーマで原稿依頼をお受けいただきました先生には御苦労おかけしたかと思いますが、ありがとうございました。おかげさまで、読みごたえある特集ができました。お楽しみください。

小牧一麿、百瀬寿之先生が急逝されました。追悼の御寄稿を2人の先生方よりいただきました。謹んで御冥福をお祈りいたします。

新入会員紹介として賛助会員、松山順太郎先生、正会員、岡村龍先生に御入会いただき自己紹介を御寄稿していただきました。

その他、奨励賞、同門会、医局行事、開業報告などがあります。皆様には隔々まで目を通していただくと幸いです。

また、田島名誉教授からは同門会へ出席を!!の御寄稿いただきました。会員の皆さんは熟読していただければと思います。

最後に何かと忙しい中、本誌に御寄稿いただいた諸先生方に深謝いたします。

平成25年6月吉日

渡邊 信二
石田 康行(文責)
田原 加奈子

宮崎大学医学部整形外科

同 門 会 誌

発 行 日 平成 25 年 6 月

発 行 者 宮崎大学医学部整形外科学教室同門会

編集責任者 石 田 康 行

印 刷 所 有限会社 磁